源流

茶湯綱目

五

470

797
.E52
7046

茶之湯綱目　又之巻目録

真臺子七段飾

初段真の臺子大盆小盆ニ唐物茶入其上天目

二段真の臺子大盆大海茶入合子の飾盆盆點

三段真の臺子大盆袋天目茶各入

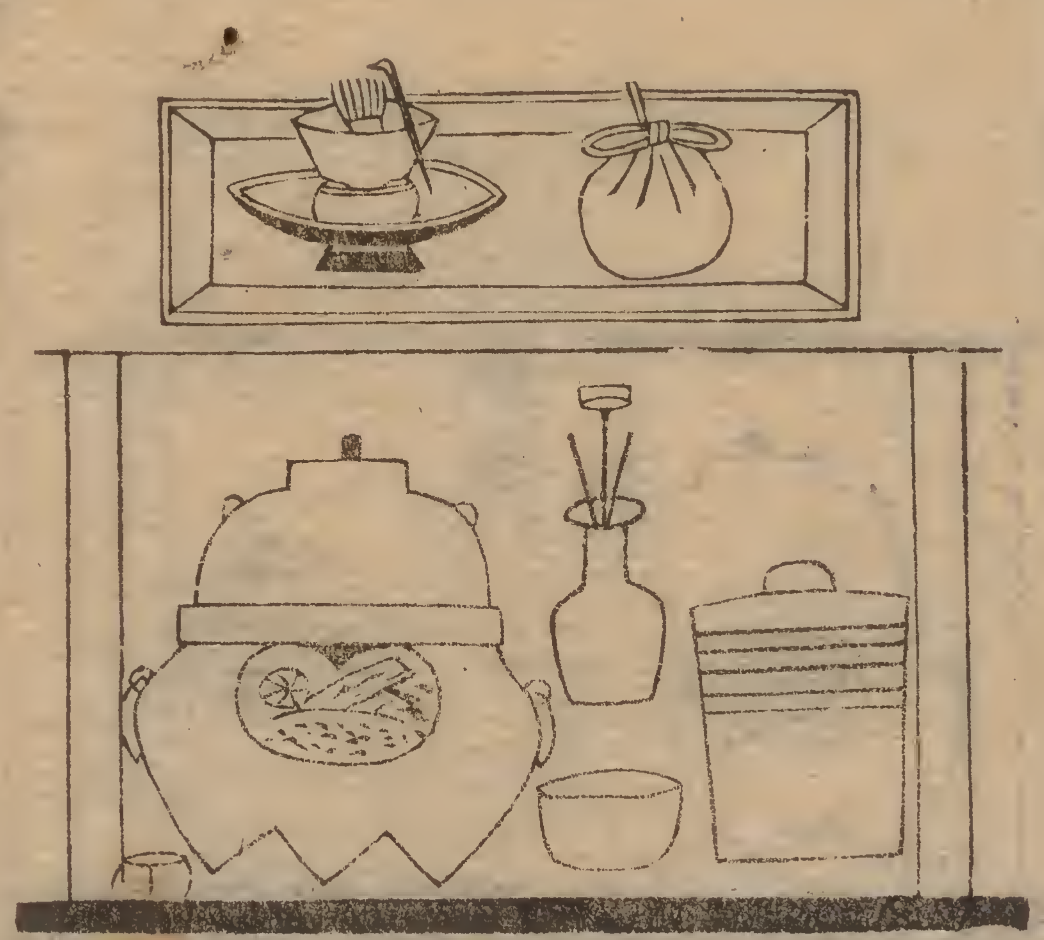
四段真の臺子大盆内海長緒茶入臺天目三段

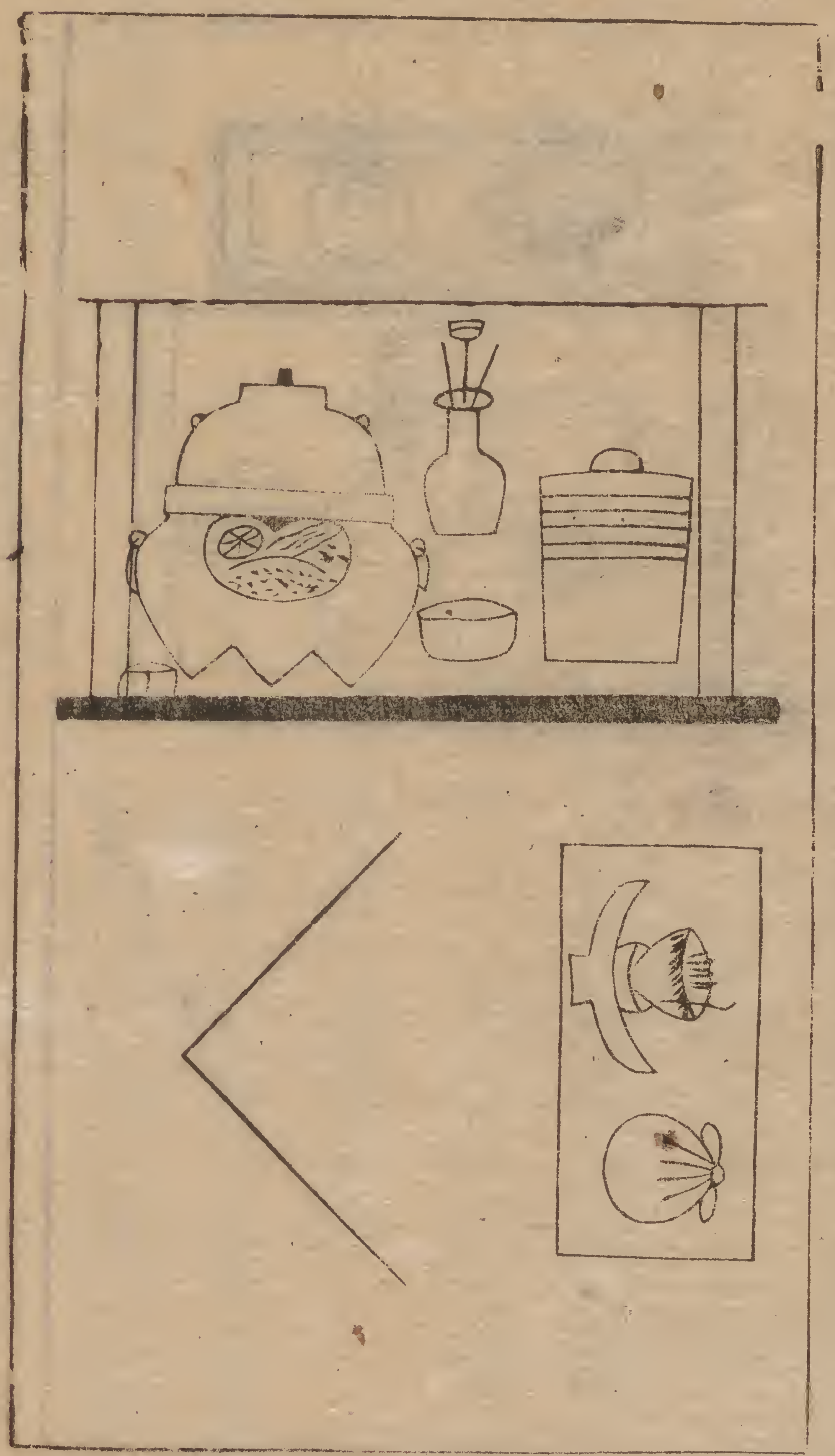
五段真の臺子大盆臺天目茶碗二服點

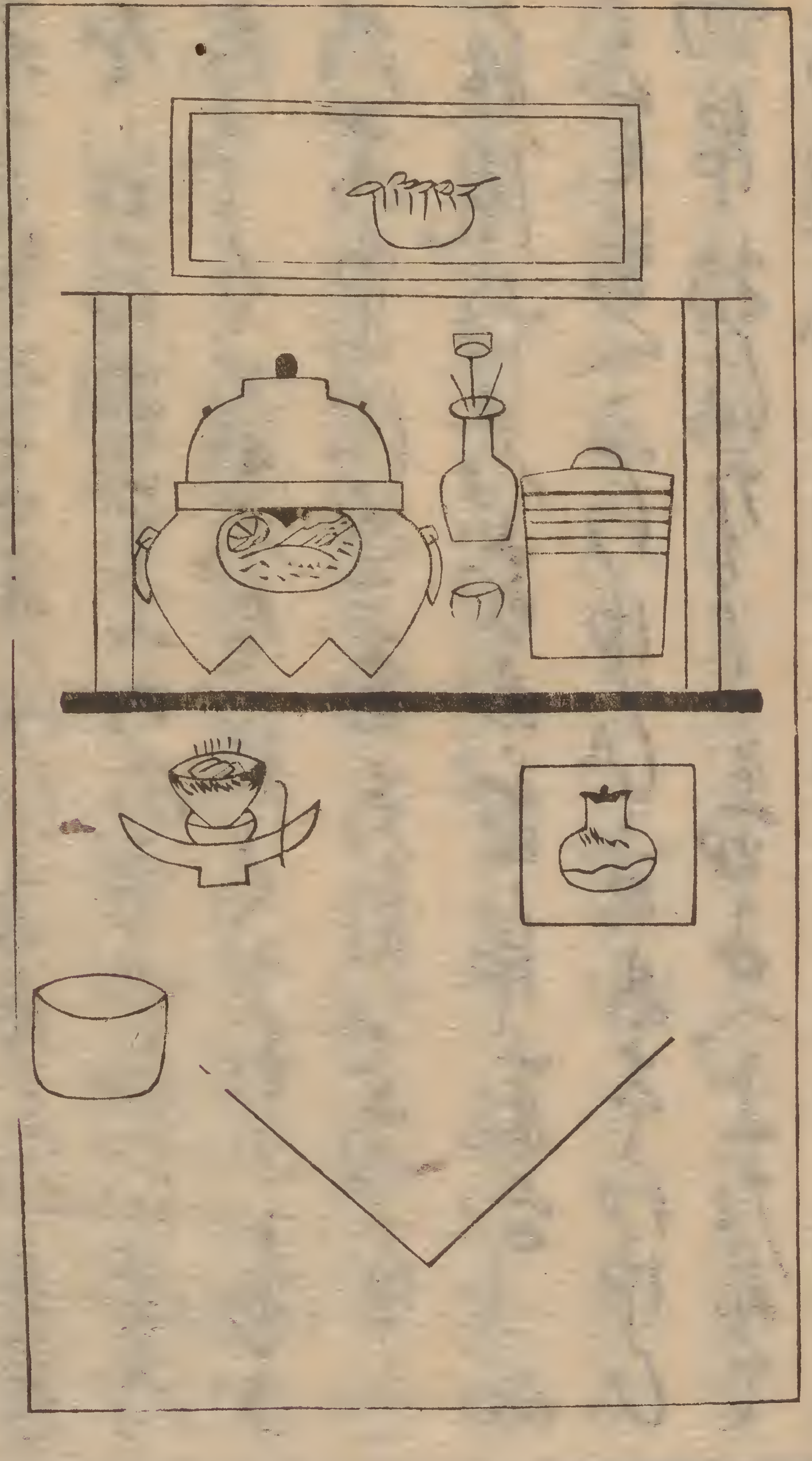
六段真の臺子兄盆分文茶碗盤水蓋盆

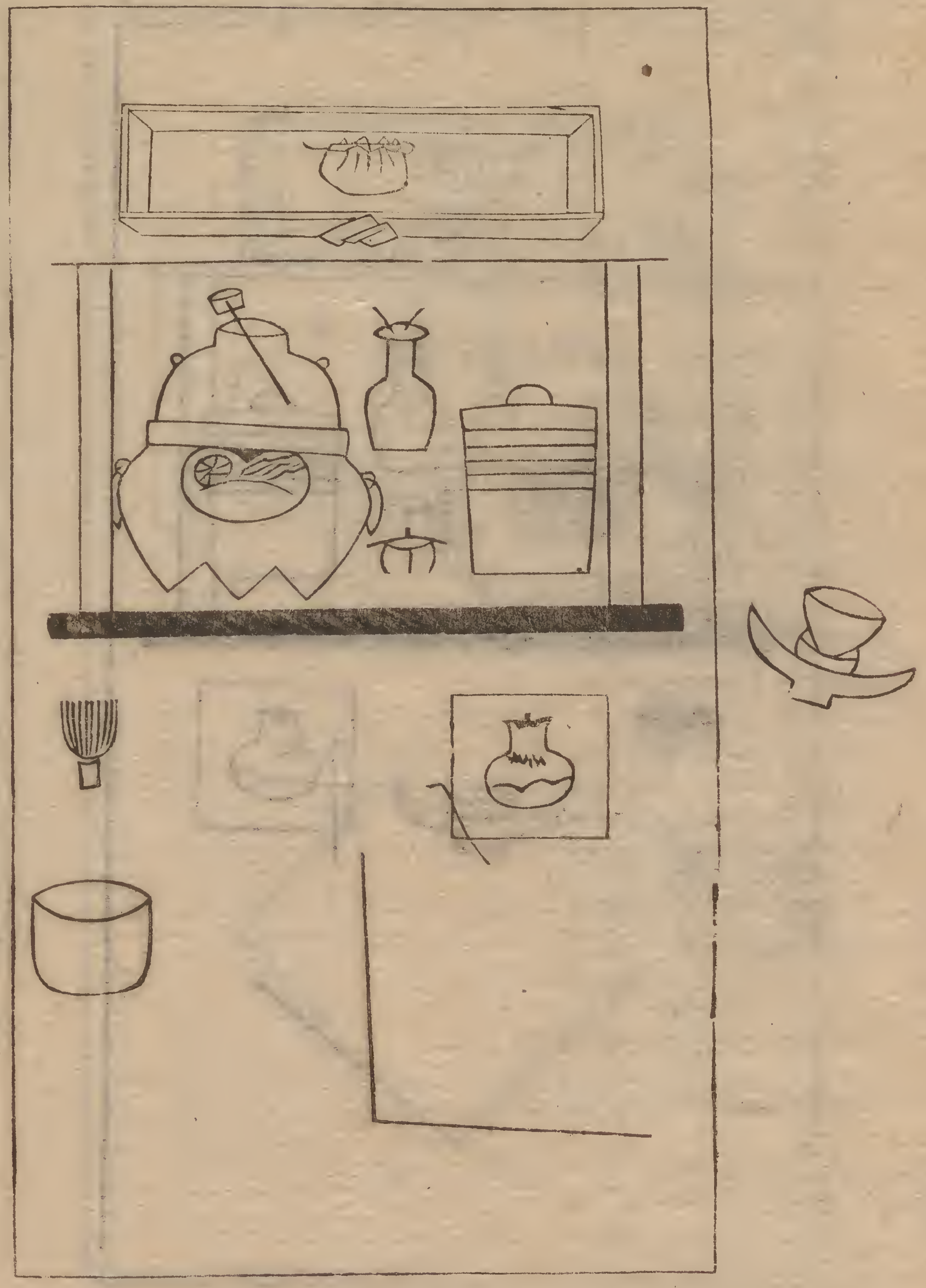
七段真の臺子大盆二ツ臺天目穂屋香炉蓋盆

志の臺子大盆小盆底飾茶入臺天目









一順勝手乃茶杓条や帛捌よそさ
みつ所茶杓子ふ向ひあまりて大ぬき
をし取居並(ナラ)ひ其の方ふ向ひ帰乃
おしとく茶入を取くりわふ茶杓子
乃古巾に茶壷天目をあまりまて
取風炉乃あり茶帛一服茶し向
よろ茶へ三つ巾ひ立あまつ巾ひ
切帛折返なりし茶杓子へ上たあて
ふ盈所のとく下し居手勝手
口を明小盆取おし ふ茶乃おま

茶ためて茶入れ常のとく袋ぬがせ
袋ハ大盆の内へ入茶先帛めくり盆向
ま盆三つ巾ひ所のとく取くめ茶
茶入取とり巾ひ帛ハ懐(クハイ)中(チウ)して大ぬ
て盆ぬ茶帛一服茶し二つぬ折茶杓
取巾ひ盆ぬ所のとく茶茶入取
所乃とく茶帛ぬて茶杓子乃天井を
巾ひ帛膝ふそろし茶巾口つたくしを
取とめつましめくさめて手へ上盆を
茶杓子のくろまくり出し茶盃を

蓋を茶巾へ出し帛にてふく釜乃蓋
をとりやく二ツ目にぬかぬし湯を入
ひしやく釜に置あをて天目に湯を
捨又茶わん湯一ツ入柄杓天井に
助かへく置ても合ぞ又ひしやく立よ
きとのとも帛ゐをて釜の蓋をし
て天目へ茶入ねをてれ上二ツ
湯ひして茶乃しく下にて茶帛ゐく
茶筅を中へれ而つゆ服を巾ひ下に
出帛て轆ゐをさし茶巾ね志を置

かのしくぬくさ炎上天目に湯(トウ)んニツ
しく湯捨(ステ)茶巾れ綴巾ひ亀かを
太めく茶入れ蓋れ盆のまへ申よ
出茶みききそり置と口かり之口行
ゐうゐうく茶粉れ茶ばより燈よ
入を可ぬさうしとりかりを又右を
ゐくとりかりもあるの之口行さして
く天目の中へ入茶入の口まへ置を
捨めく巾ひ蓋をして太ゐの天目か
かゐあり茶杓ゐく茶を入も帛

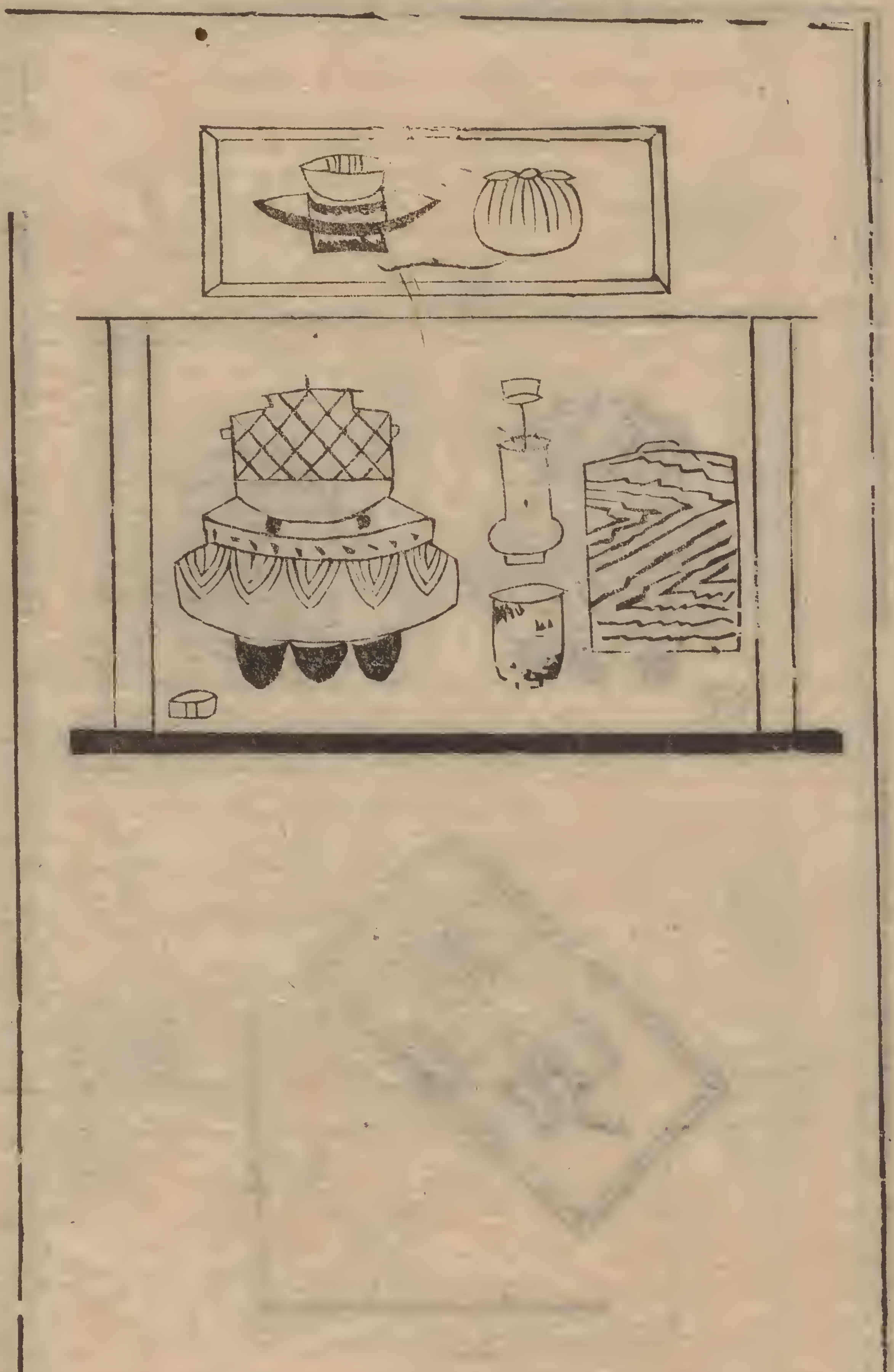
よく釜乃茶をさしやされ湯能所と
入替ゑ切ひしやく置べし茶釜
の蓋を土つゆめくりし茶碗の蓋乃
こしやの鳥の上に置茶釜の左へ居置
あけのく扇天目ならぬめ也えへし
中にあらひまかせまゝのことのまゝ置て
そのゝち茶碗それを一ひしやくさまし
ゆくこほしやくなりて
一濁(ニゴリ)湯ゆ天目茶碗なと洗(カン)をとし茶の
湯入茶巾拭まして一ひしやく入れ水入

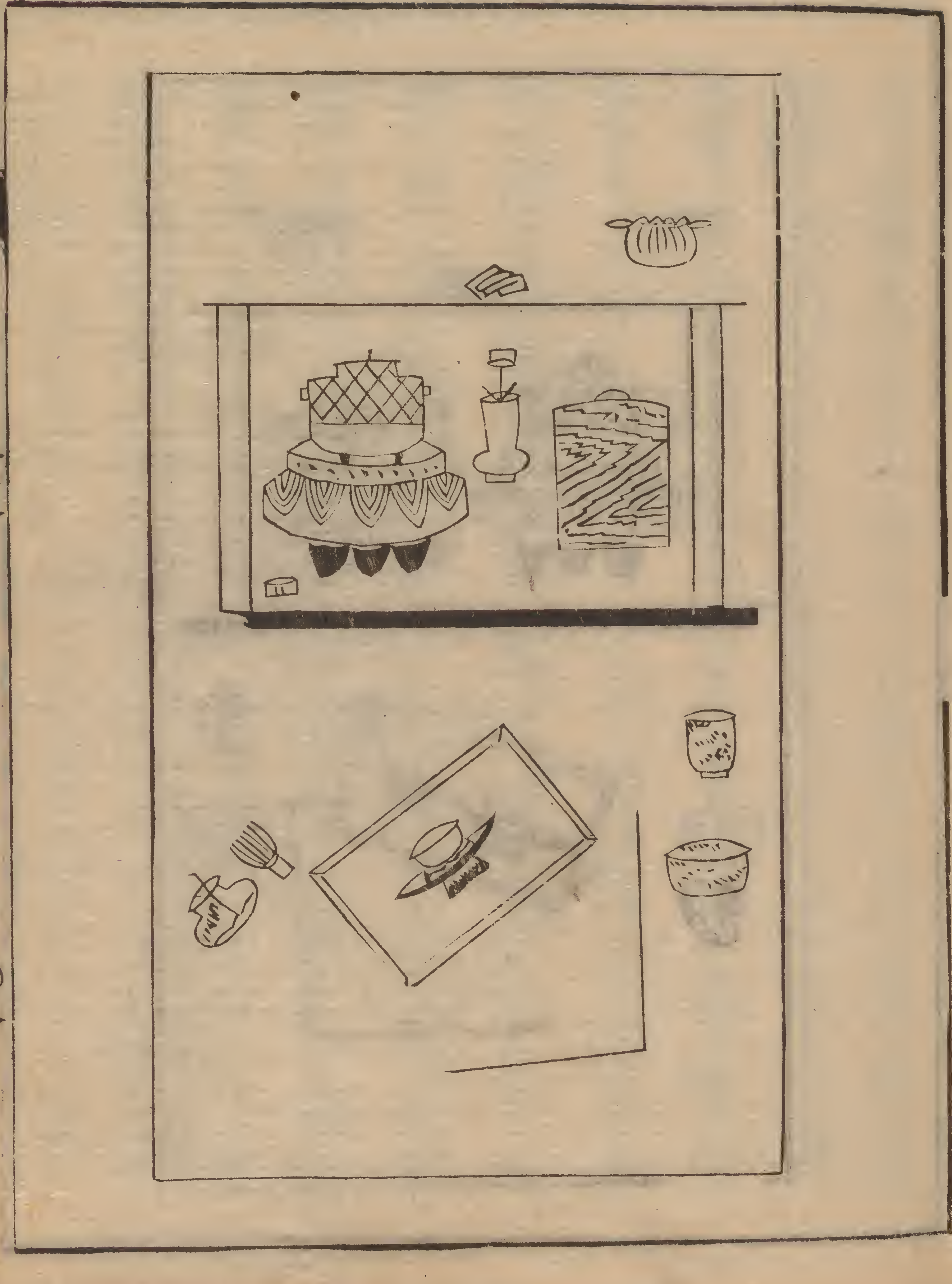
て茶釜入ちゃうへれさへくとりてをきてよ
蓋置めく茶巾ひ茶釜蓋の所
へ出し湯を入て茶巾めくゆく居
あゆつさなは習(ナラヒ)しとなれは湯茶巾
ともさしまて中(チウ)めくまつ置のめして天目
乃中(ナカ)へ入茶釜おく入茶抄れ巾ひ
茶碗の羽ゆ蓋本の所凡へ言の
一ひしやく捨れゆり一ひしやく立ゆ
さし釜のふたをへしそのまゝの蓋
をとりて付茶入それハ茶入を巾ひ

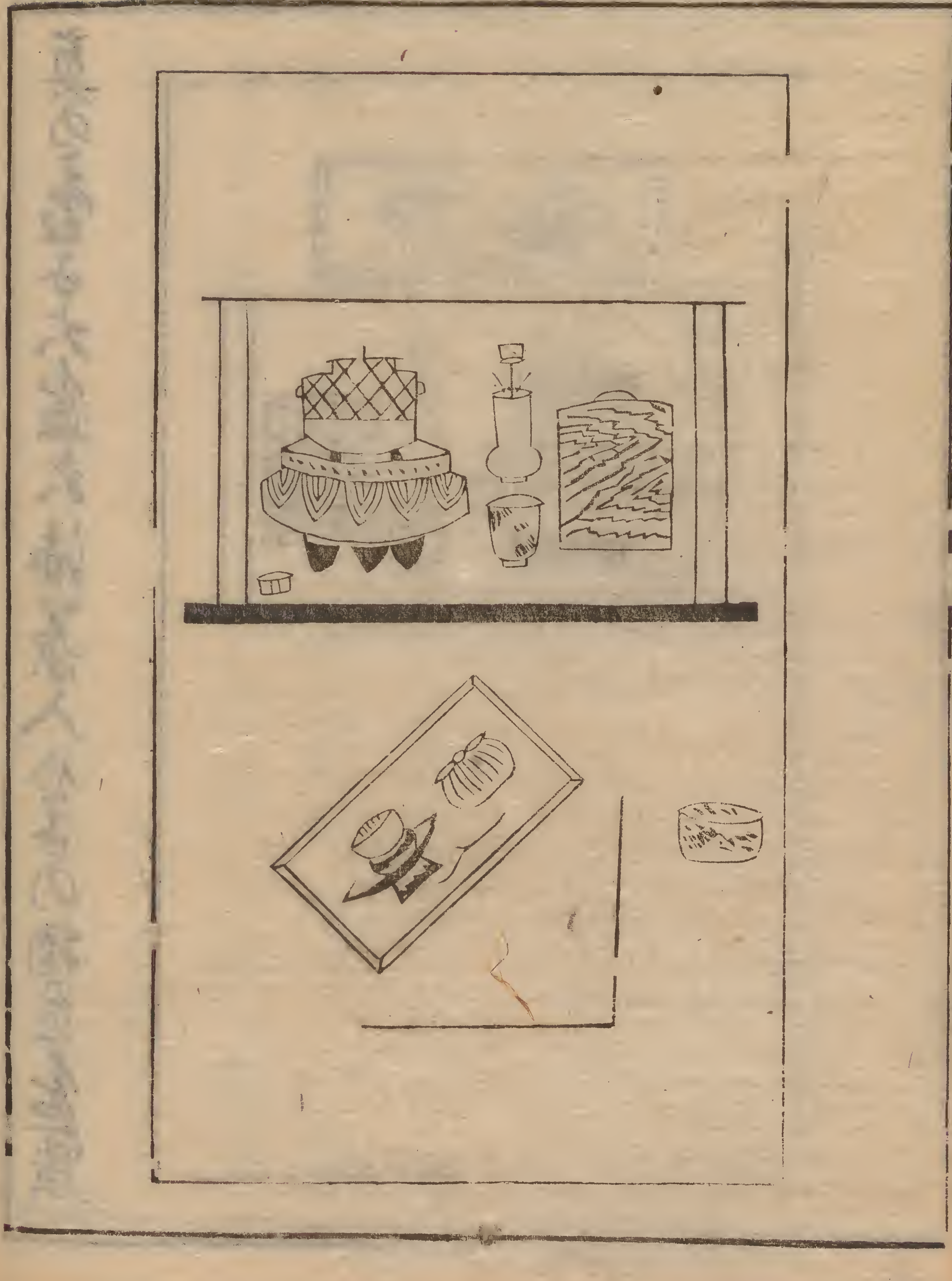
ちく〳〵絵がらんハ霞のかゝら
ゆひとく〳〵やうらんハ也もとをつ
遠く緑をうすらんハつりのきを木の
あく〳〵とあく〳〵葉抄らんハ也も
掘えと白く〳〵して出して〳〵
けたるのめに如何にも岸に非〳〵
紺河ちく〳〵炭をつく〳〵書
して島のうら屋鳥家の如く梅め
南向の屏風を立てかよ島のゑ
参る大出地のく八かつして添へ

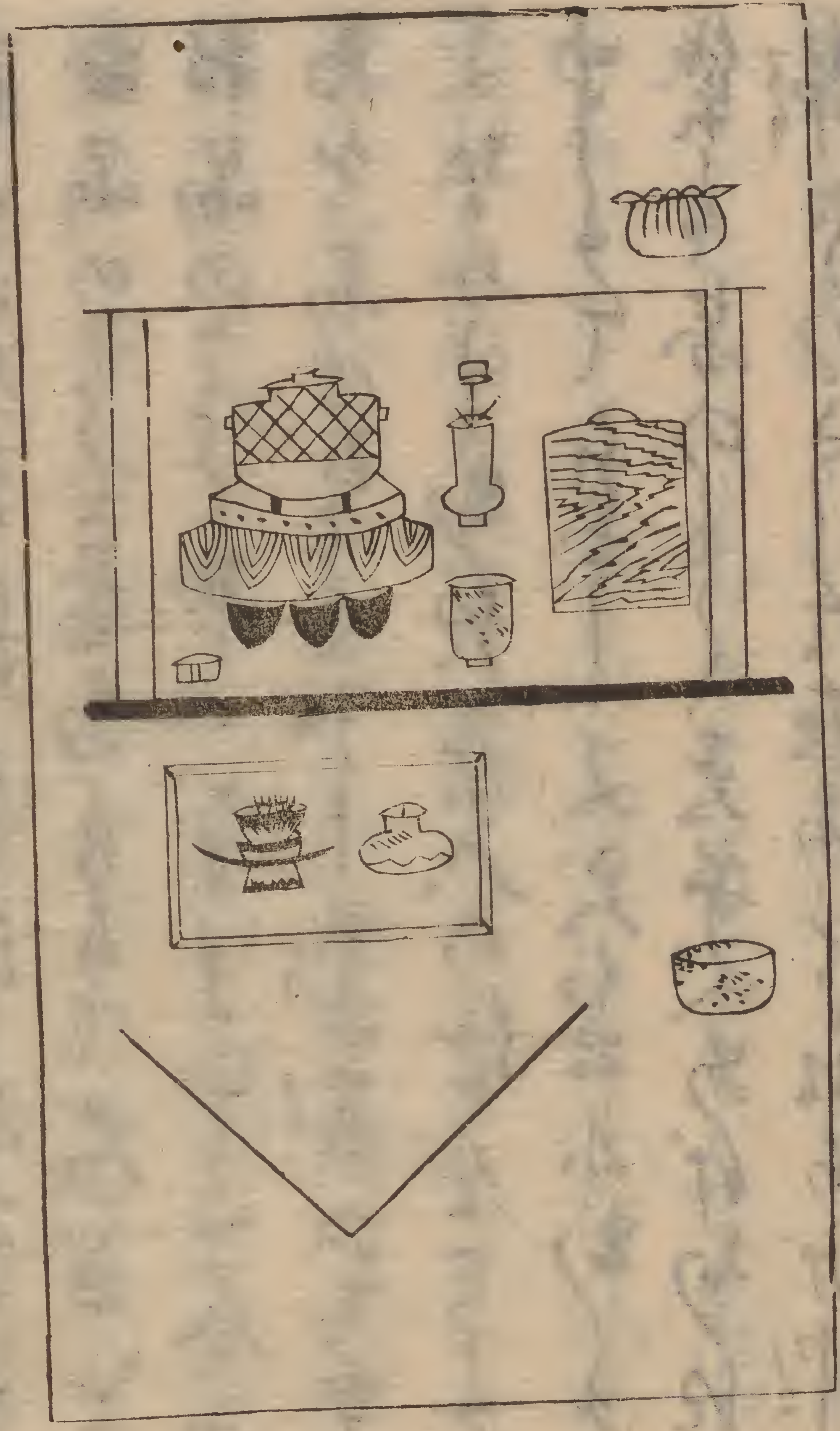
本参るとのるとえその所なる也は
多し

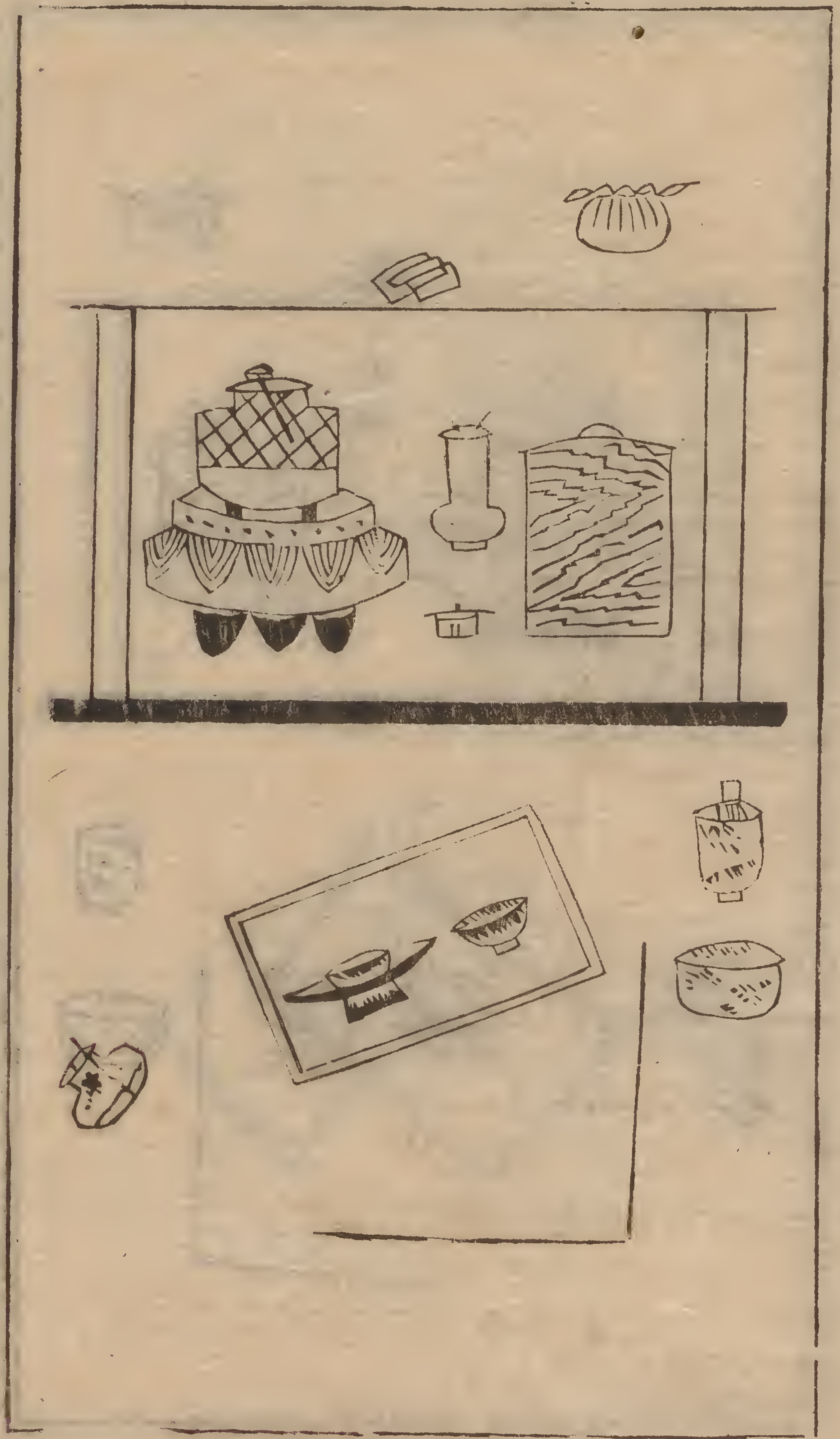
真の臺子大盆大海茶入合子の拵盆盆點









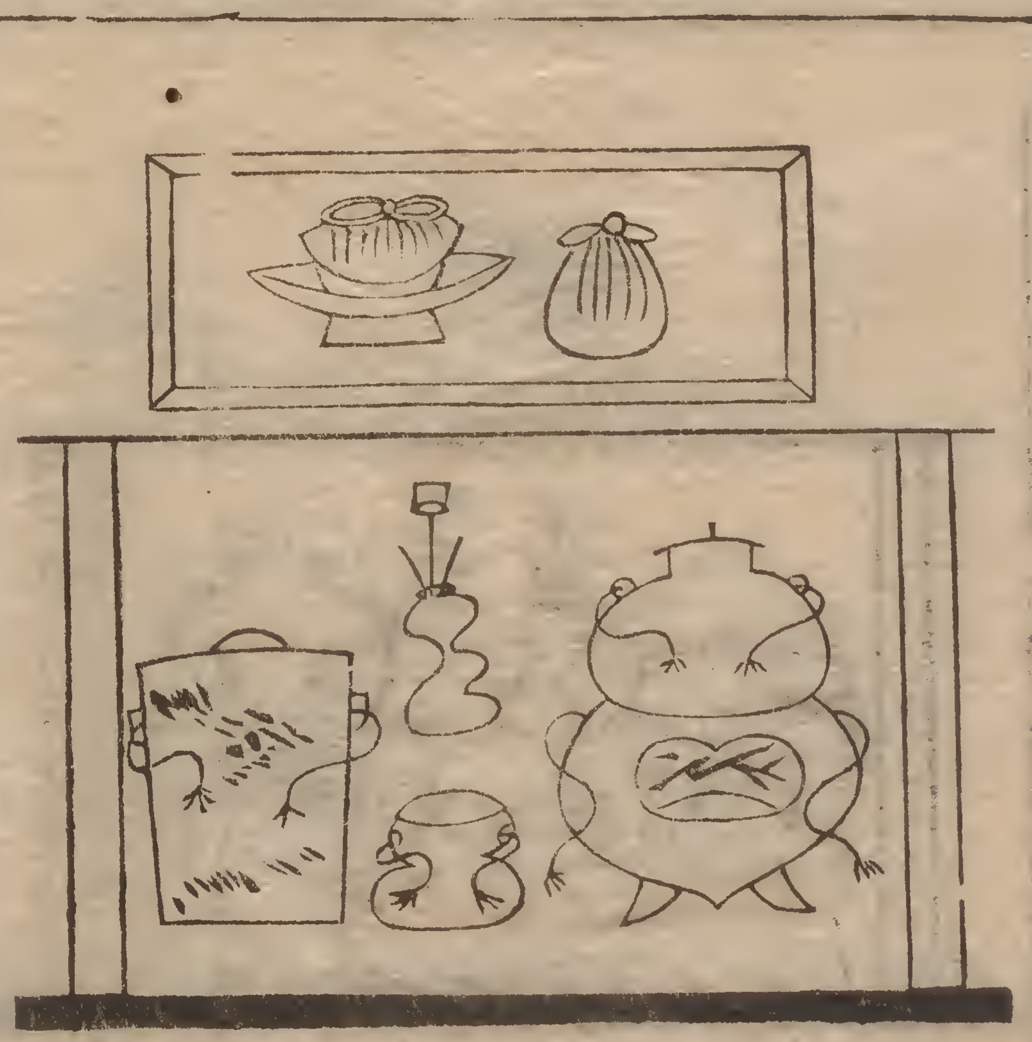


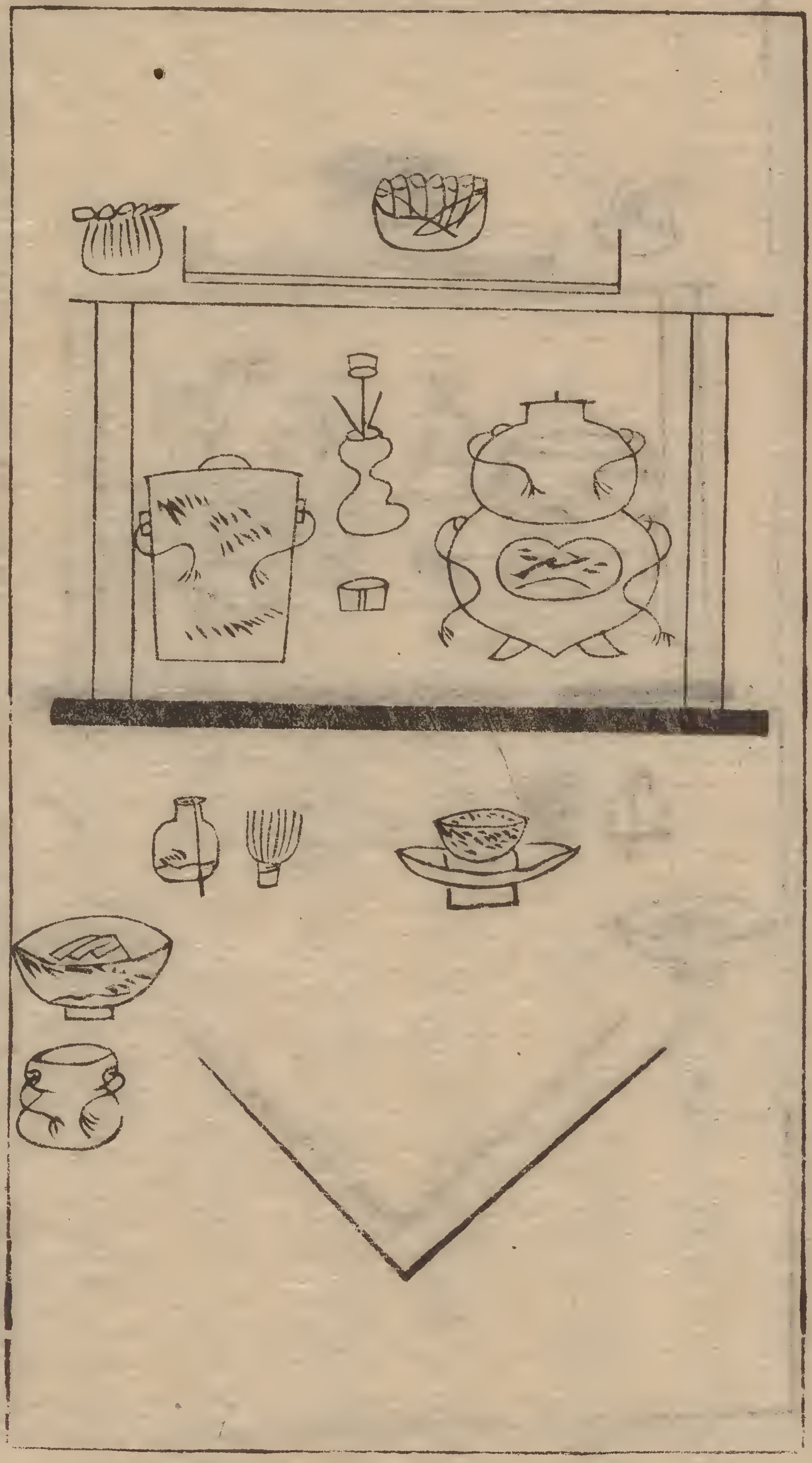
一逆勝(カツ)手(テ)は客より風炉釜左り置
勝手より帛紗をさばき常の建水(コボシ)おき
常のごとく置きはじめて大釜を
置常のごとく扱ひにいたりて令子
茶を常のごとく下し蓋(フタ)置(ヨキ)にのせ
よなをしあとに茶入の袋をとり
中よりて建水し又大釜にかくる
袋と常のごとく天井へあげ扱に
帛紗(フクサ)さばきして左にかくれあげ巾
ひ常のごとくかけるべし又帛紗さばき

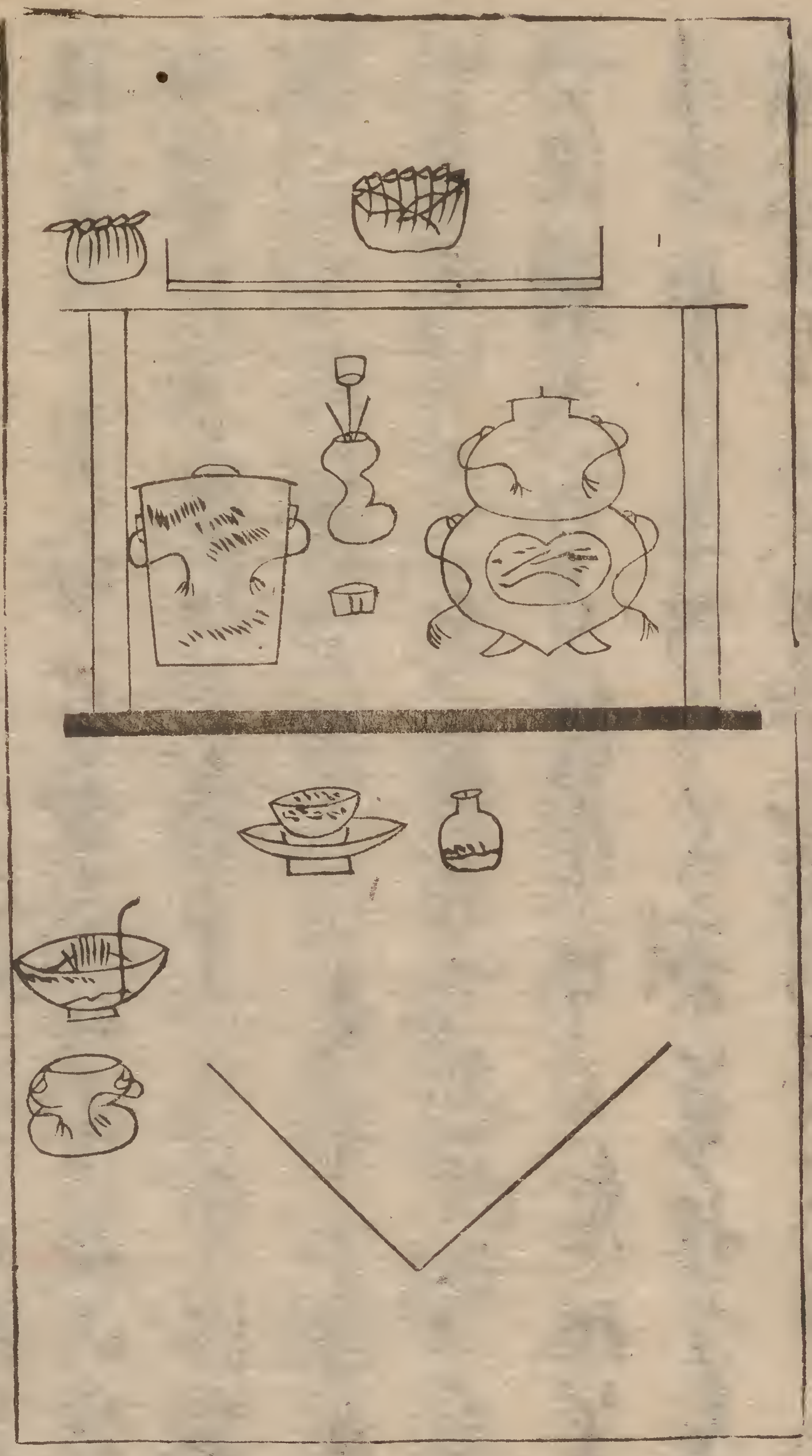
して茶杓をとれ中ひ茶入乃蓋乃
露をたづしかけ茶碗をとりて茶
入をならべ蓋を右手にはよせ帛
さりさしく釜(カマ)乃蓋にとりきりやく
二服ほどぬきとし湯をわ入てきりやく
右のきりやくゆうけ先湯を捨(ステ)又一
きりやく入て中へ入れ茶杓の天井に
筋かへ置茶乃ふたしまに茶碗を
天目に入中へ入れ湯(タウ)に(ジ)二ついして置
小蓋を中ひ下よ脇(ワキ)へ置くべし

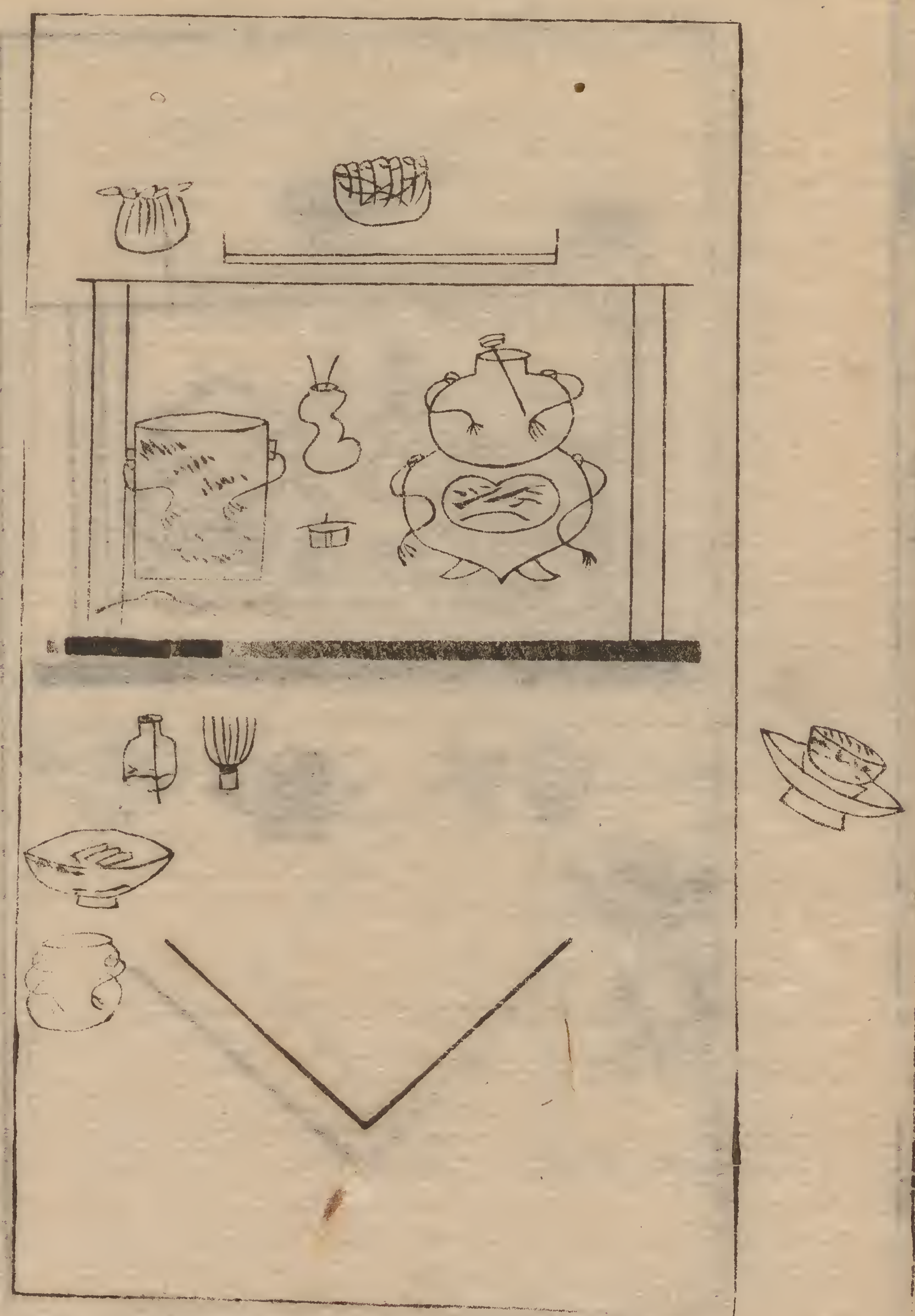
茶巾ハしほりしめ又あけ置
天目ニ置て次ニ引て湯
を飲茶巾ニ而天目ハ巾ひ大
盆ニ事をなしへきさ茶をよれ
置を入釜ハ蓋をとれひしやくより
湯を取りほと入茶釜ニ而むさ
ニ茶碗をかはしへして合子の后
ニ入る天目を茶ニ茶杓をへ出
もよろし
一 茶を天目へ入時茶杓を大盆乃
前ニ而置遣あれて茶入へ蓋をして
飯茶杓をよく茶をたてるかつ
よし
一 治ハ前乃ことくあつかひ大盆を
土器のまへへかへる事よし
一 合子の跡ニ茶釜入れる古法ニて茶筅
の始なり茶碗の外ニ茶乃分かり
事ニ而人を御しれ書物なり
一 大海乃茶入ハ肩丸く付きりはして
なりつとし

真ノ臺子大盆餝天目茶[illegible]入







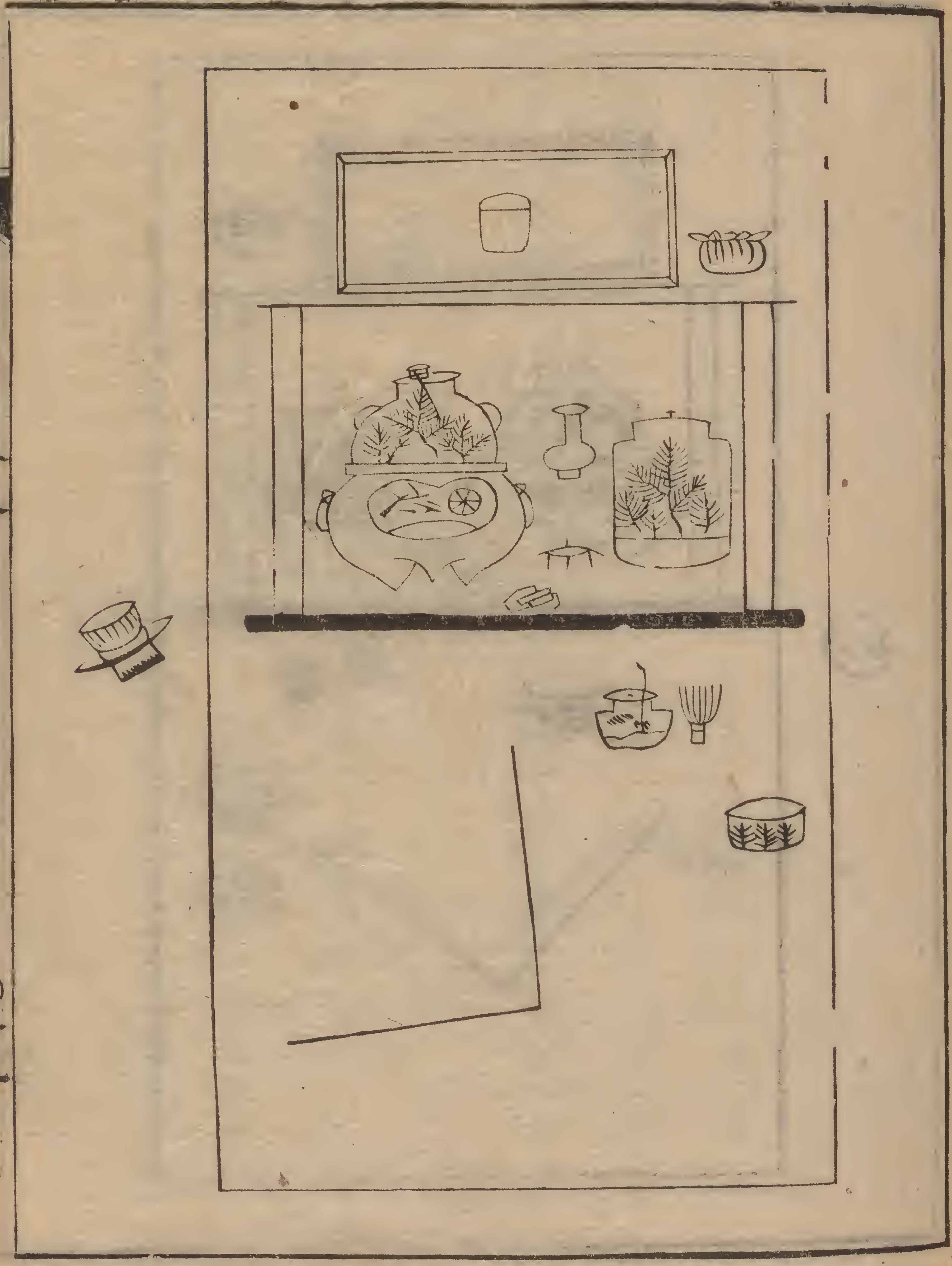


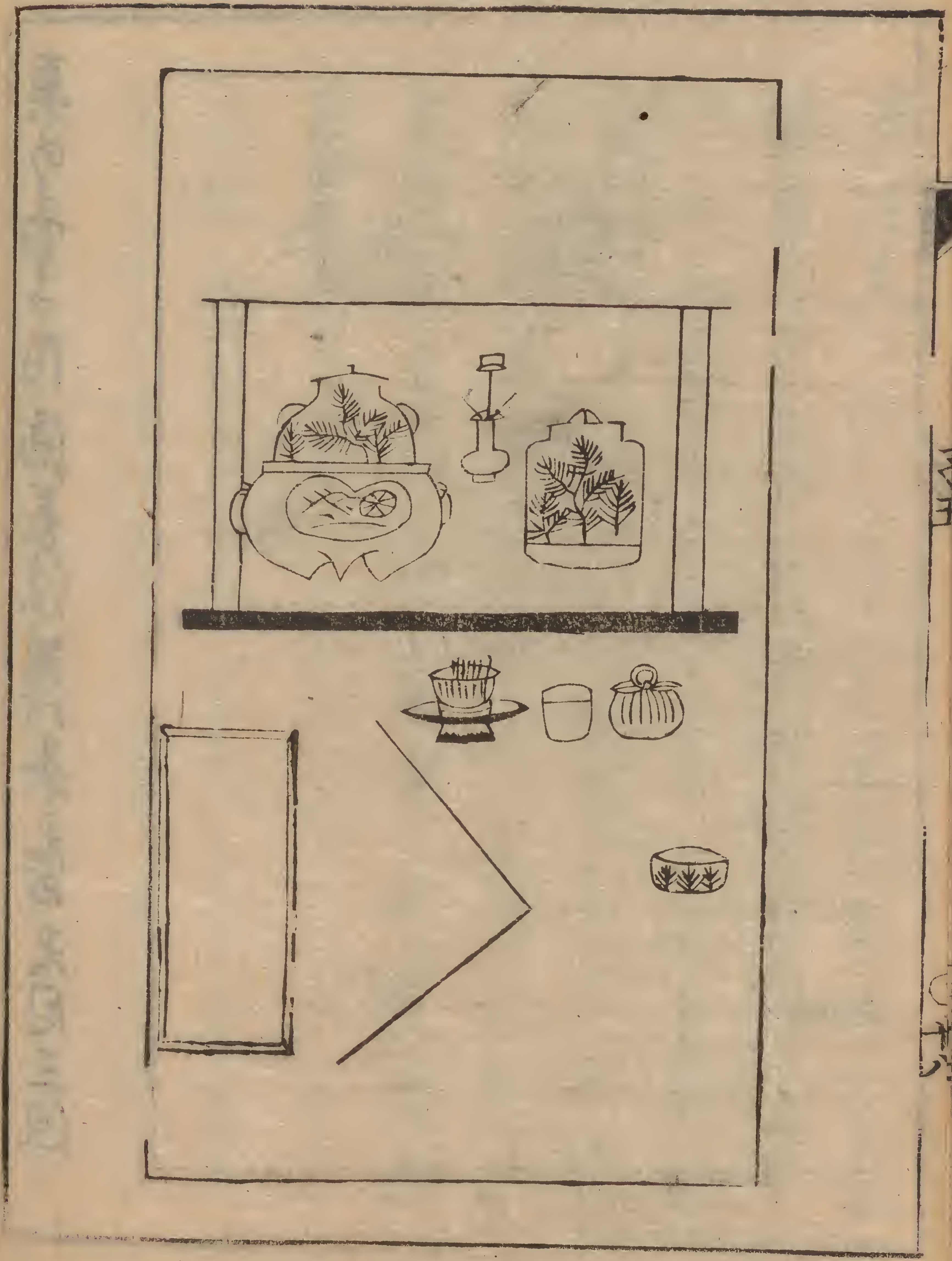
一此錺りの臺子ならバ右の茶入
おきめ乃ことくおし出しまて大盆
持出乃ことくかれ茶入れを袋のを
取盆天目と臺子乃古帛に盆
帛まて大盆とぬぐひ天井へうつ
いたして包て置れおとく
あれ茶入れく袋巾をうち帛にさ
しく巾ひ置乃ことく蓋（カザリ）茶杓を
茶筌ならへ茶筅れく古帛へ
出し臺子乃天井を巾ひ茶巾し

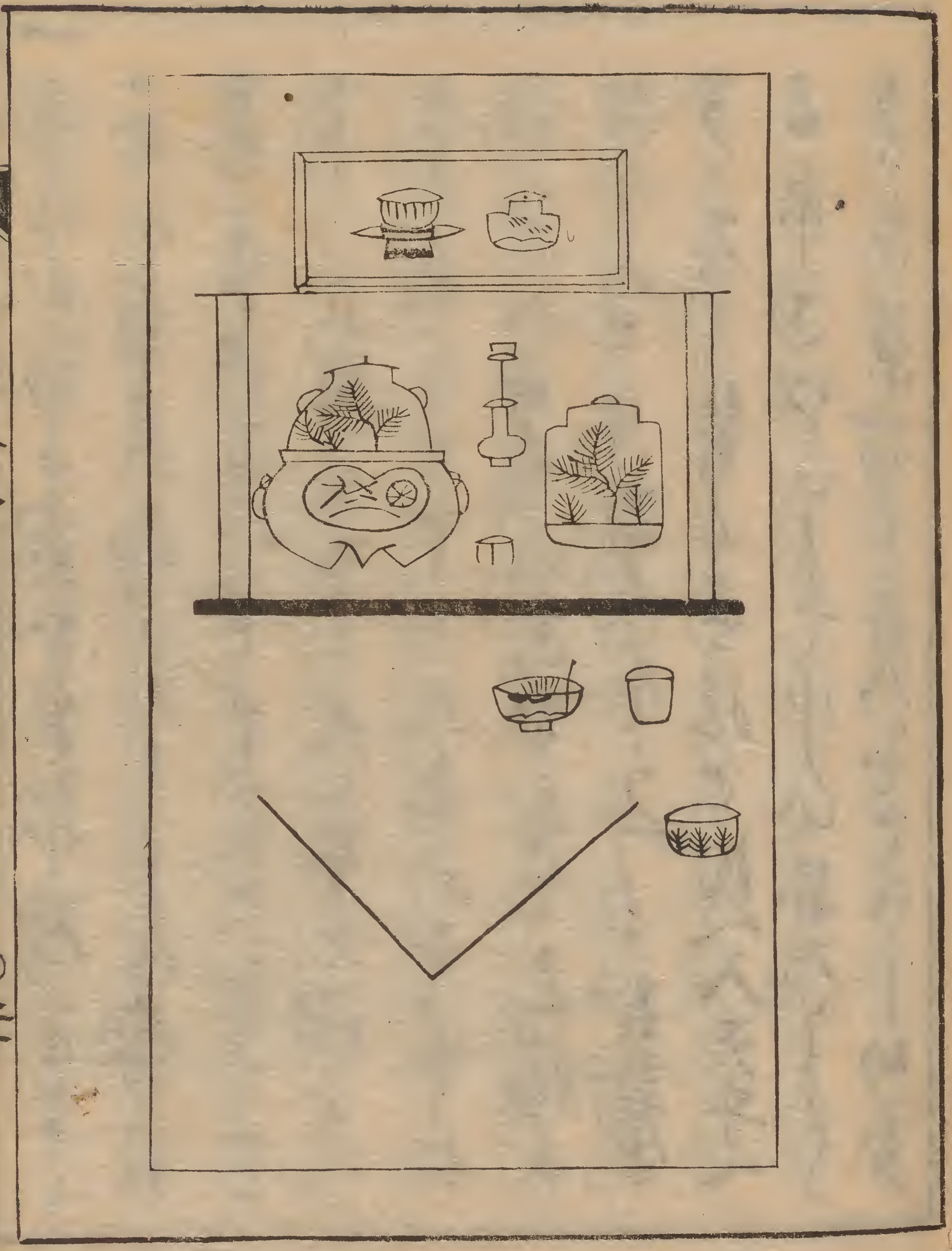
よるすりにてハ天目乃袋よく直し
ひきさやうに偽多し　袋ハちらぬく
為（セ）脱（ヌカ）甚よ盆袋ハ置乃ことく大盆の
内に蓋をそれよ置後乃ごとくいハあし
乃ようなに同し　なる茶巾出帰
あげおき茶を入茶入乃蓋取湯入
蓋を其の茶筌ハ中ゆてもてそれ
ましきらさよ茶茶入へ入りなるを
いかかり盆天目出を置漱（ヨナメ）ル
後乃ごとくいハ茶巾茶筌茶杓共に

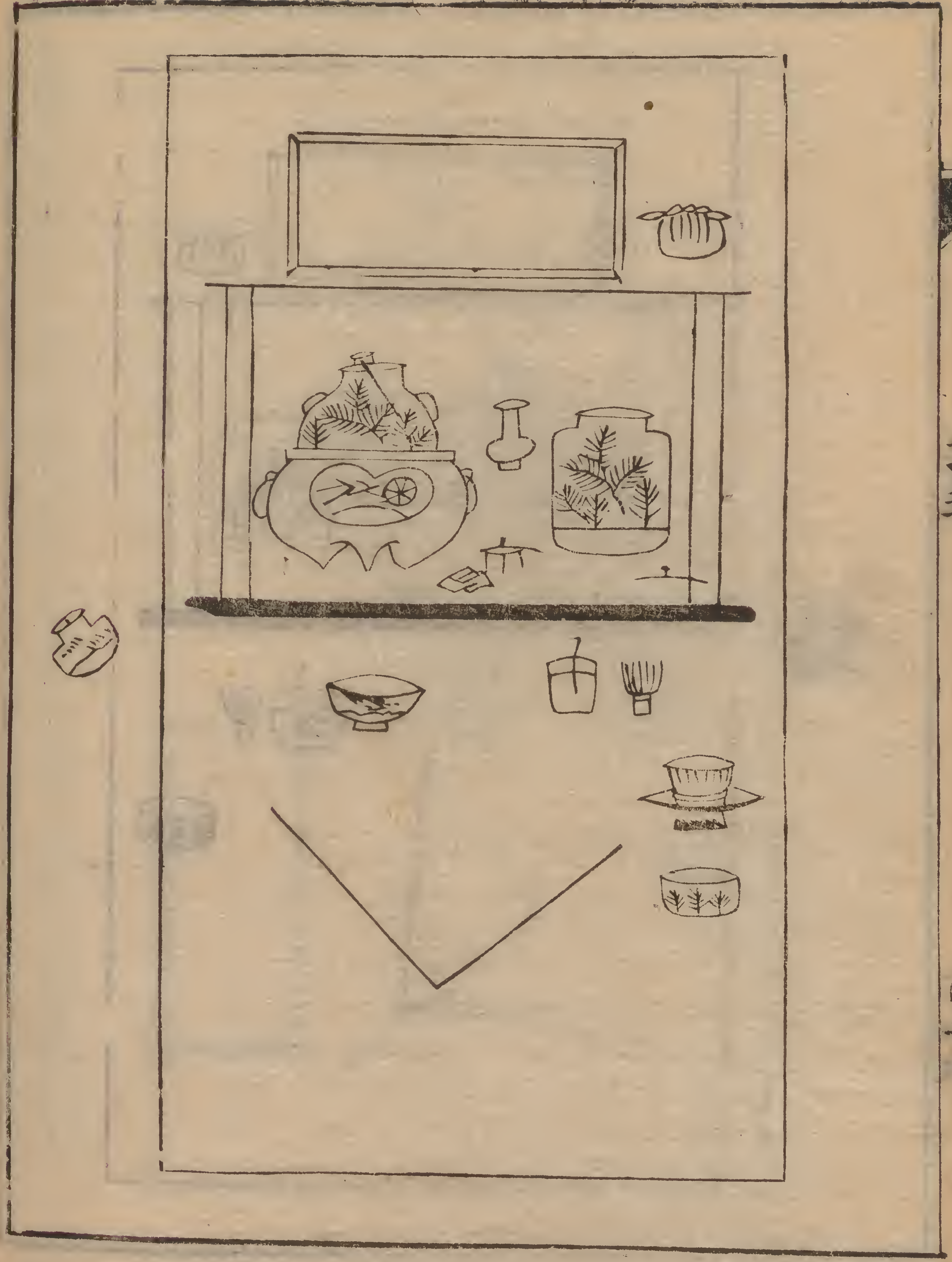
茶筌入へ湯をなかし天目なとのことく
湯をへしあらひ緒附袋と取て中
みかく入結ひとまりなしそしま女男
結ひみうさ附も封をとし云習
あり但貴人放いてさらに事もあるまし
それ所によつて其事も有るへし
ようへし

真の臺子内海長緒薄茶壺 天目二組









一逆(キャク)勝手(カツテ)ハ臺子飾(カザリ)なき帛(フクサ)腰ゟまくし
風炉ハ臺子に向ひ右のひざくみの建水(コボシ)ニて扨
蓋置ハ客のことく也蓋大盆ゟ置
下し三奥ゟ下し大盆を添(スヘヒ)置へ
あげ棗(ナツメ)を取て大盆の上ゟ中に
並茶入ハ右の方ニあてゝ上輪(アゲワ)ゟ
拵を入是ゟ客よりをうつし奇麗(キレイ)ニ
さて風呂し鉄瓶を出へ入天井へ
と帛さばきして巾ひ器乃ごとく
りきミ茶杓と露を拭ふしおく

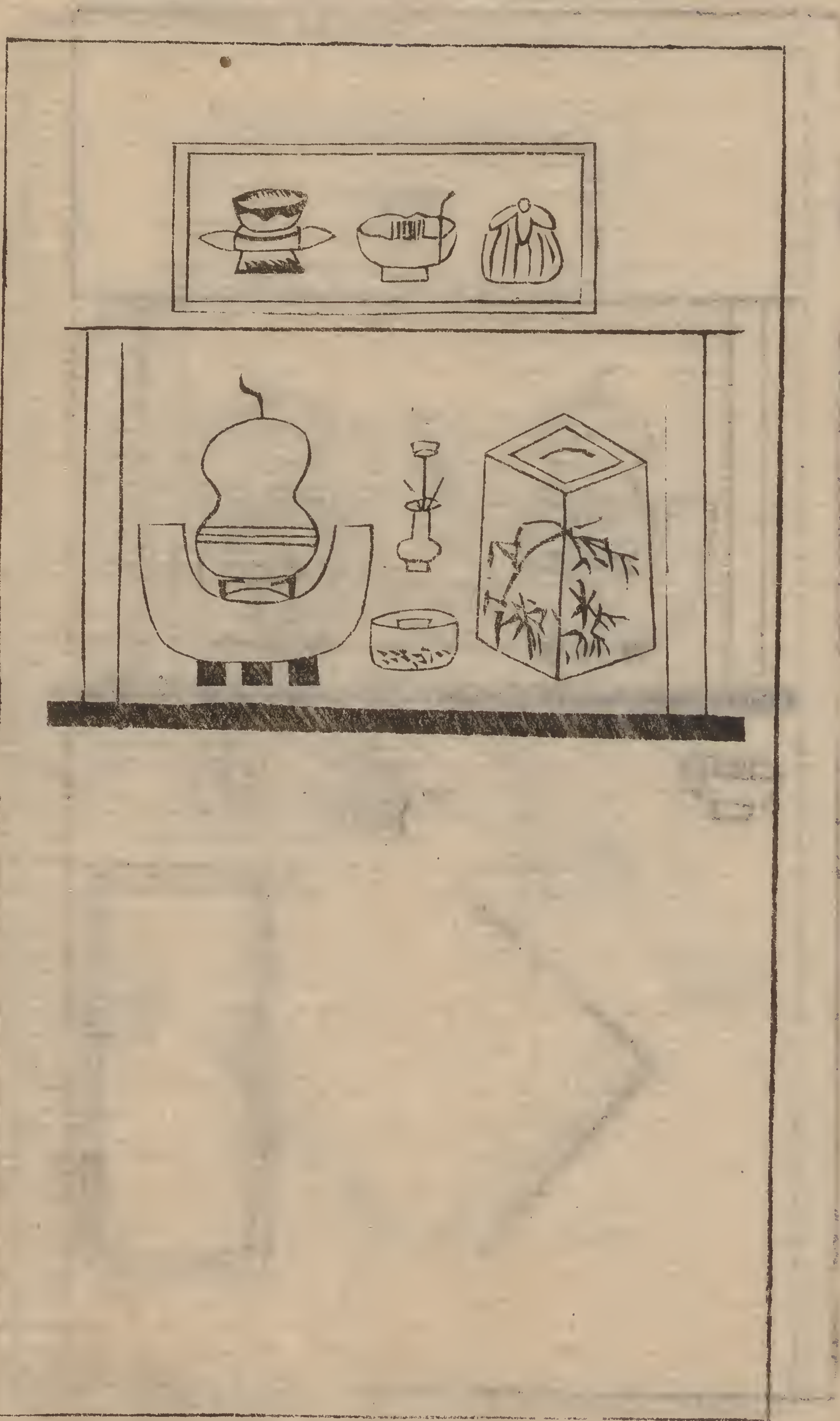
茶碗なくハ臺子とおなじ茶巾ハ始く
さ既ニ蓋帛あて釜乃蓋ハ取しやく
ぬるめ湯を汲入ゟしやくを古乃ごとく
しやくふりけ湯を以て又湯入釜の
蓋をさし火茶碗よりちらへハ三ツ
湯(タウ)ハして下る蓋帛あて壺茶巾しひ
茶巾ニ折り天目ハ又湯(タウゴ)ハ捨して
湯を捨茶巾ハ天目巾ひ(ノゴ)臺ニ下り
前茶杓ハ茶入ハ蓋ハ臺子に
蓋ハ乃ゟ入茶杓天目の中へ

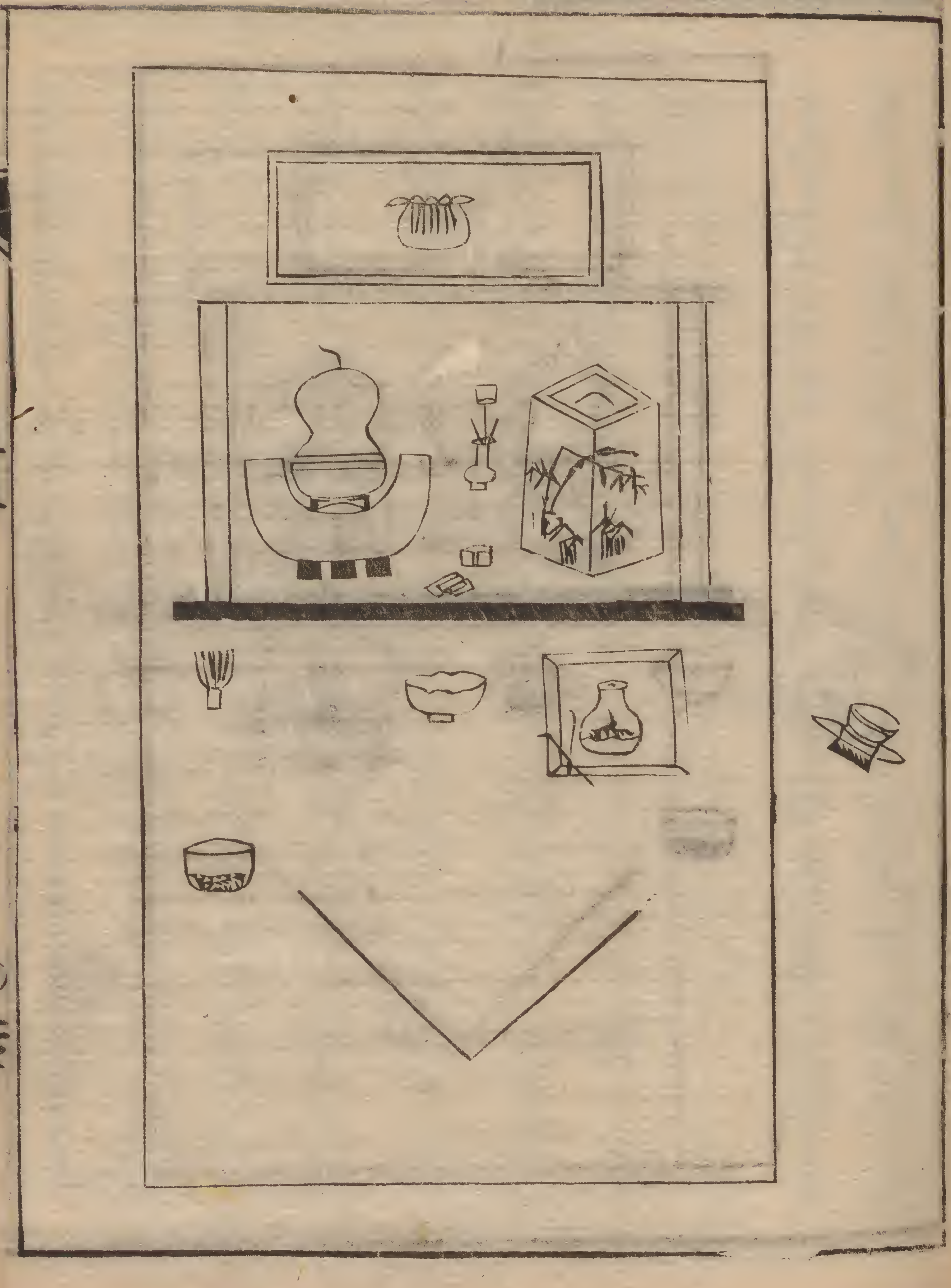
入茶入なき所にハ茶を入袋をとき
まて其茶入に蓋客乃蓋をとるを
さしやく取湯よりさかしに入切さしや
くたるを始め客乃方に向ひ臺共ニ
出して置し後用いれハ出して置し
其茶乃蓋をぬれ其のをさし清臺
天目腰(ナイ)もと始くをいふよはきを
拭濯(スヽ)滌(ヨサメ)ハ前しのおし茶巾めて
天目乃上りを中ひ臺ニ置ても内
仝茶入いれハ出して置し揃よう

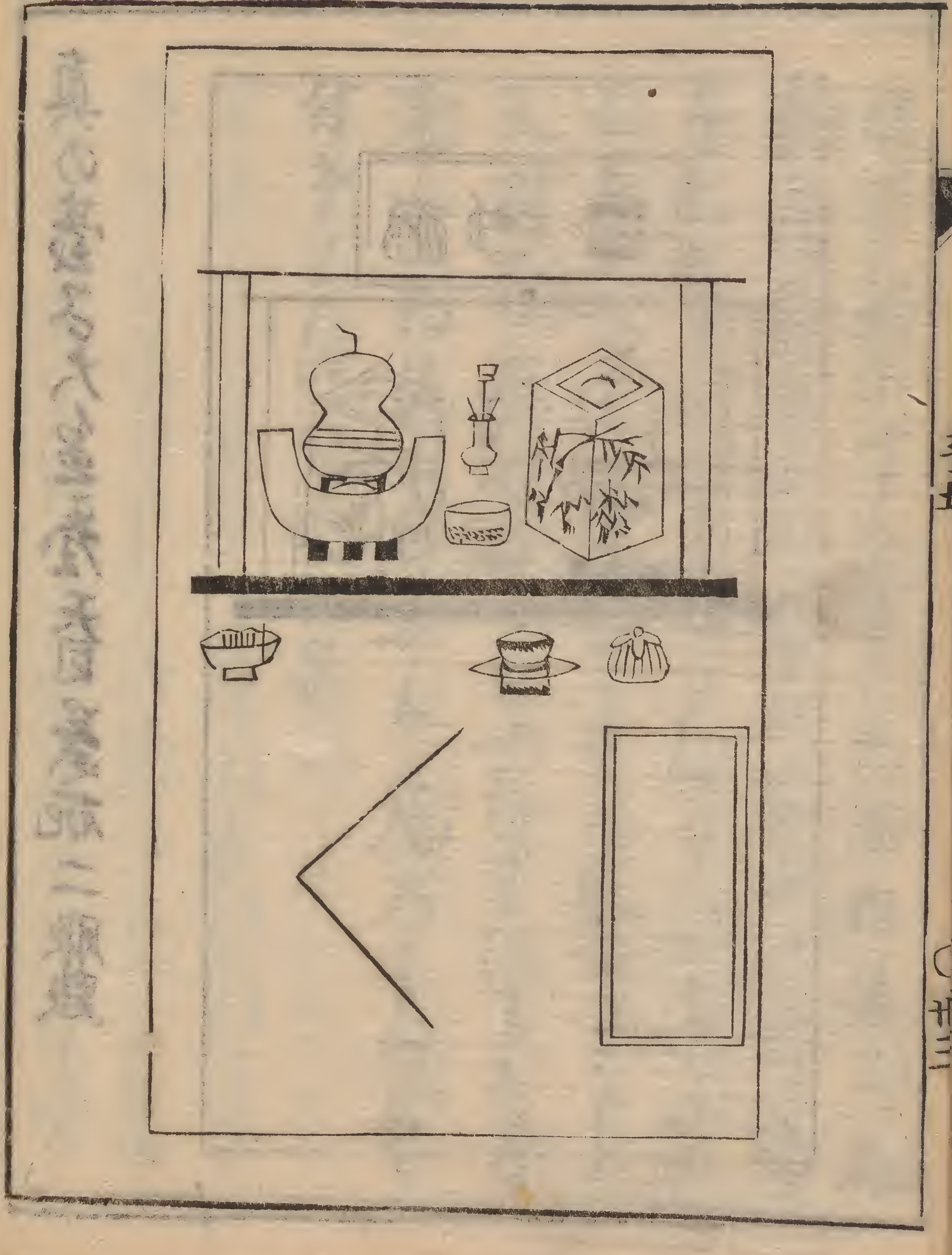
一 薄茶碗をいれよせ棗を下し臺
天目をとるのかく大盆ニよて濃茶
をとるく出して置し而拾の作法ハ常
乃薄茶ニかハる事なし
一 滌(ヨサメ)ふ臺天目にてふらくたて揃よう
よるを薄(ウス)茶碗ニ茶具をたてよみ
棗(ナツメ)とを盆合せ清ら事ともあるを前尾
滌をかなるを此よおハ貴人相客(アイヒラニ)
揃ふもなりに方まて八分よ薄茶を
立つる所乃手前なるを

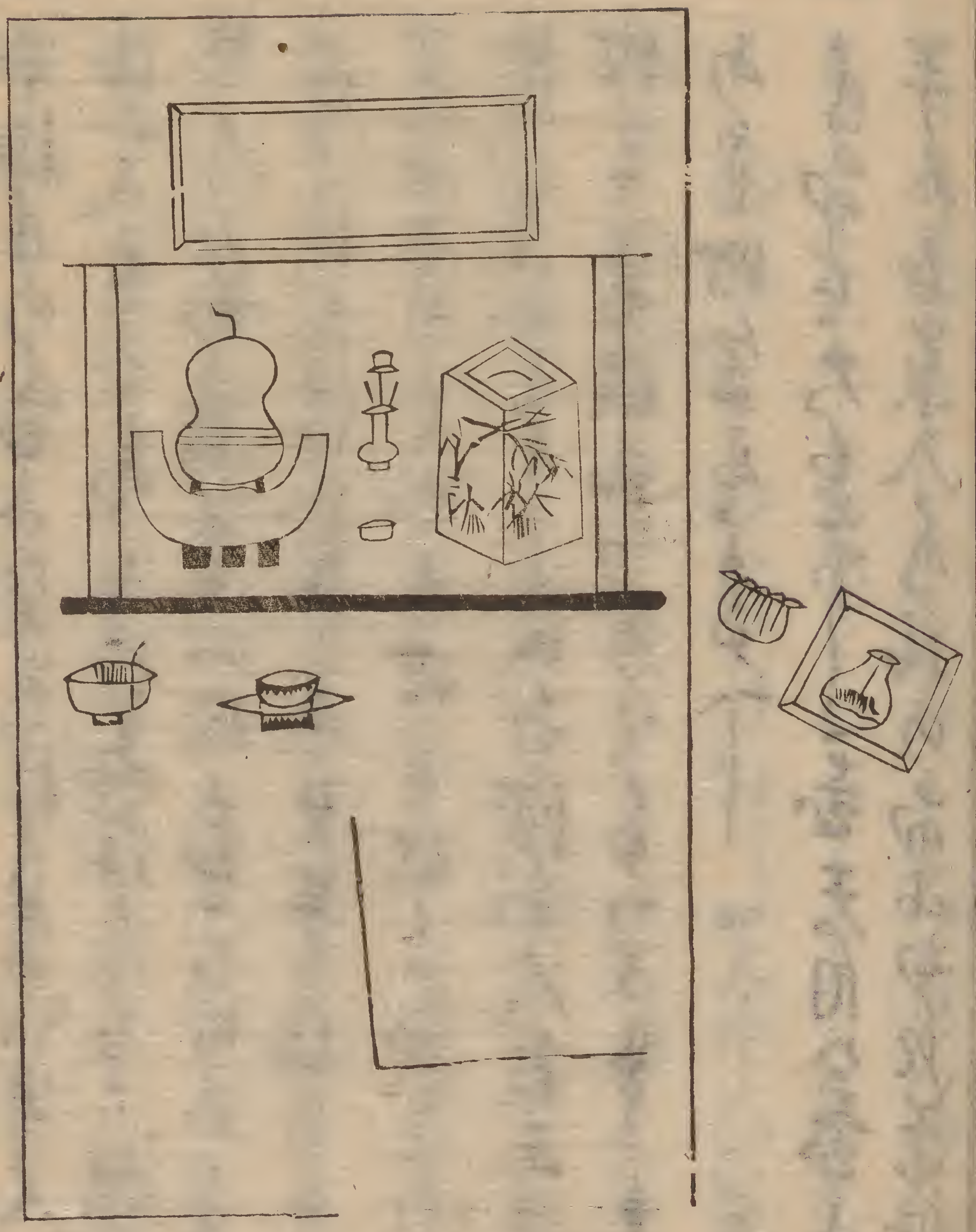
一
代もなふすらまハ大海内海尻膨
文琳庵茄子ホや分多茄子ハ三ツ瓣
を三方へ下て置さむもひといふなり
むきふへ一口傳ありてハ知かたし
又桔梗桜かきといふむすひあり
まや内海もいふを肩乃まるきも
付さむらいいふなり

真の臺子大盆臺天目茶碗二服點







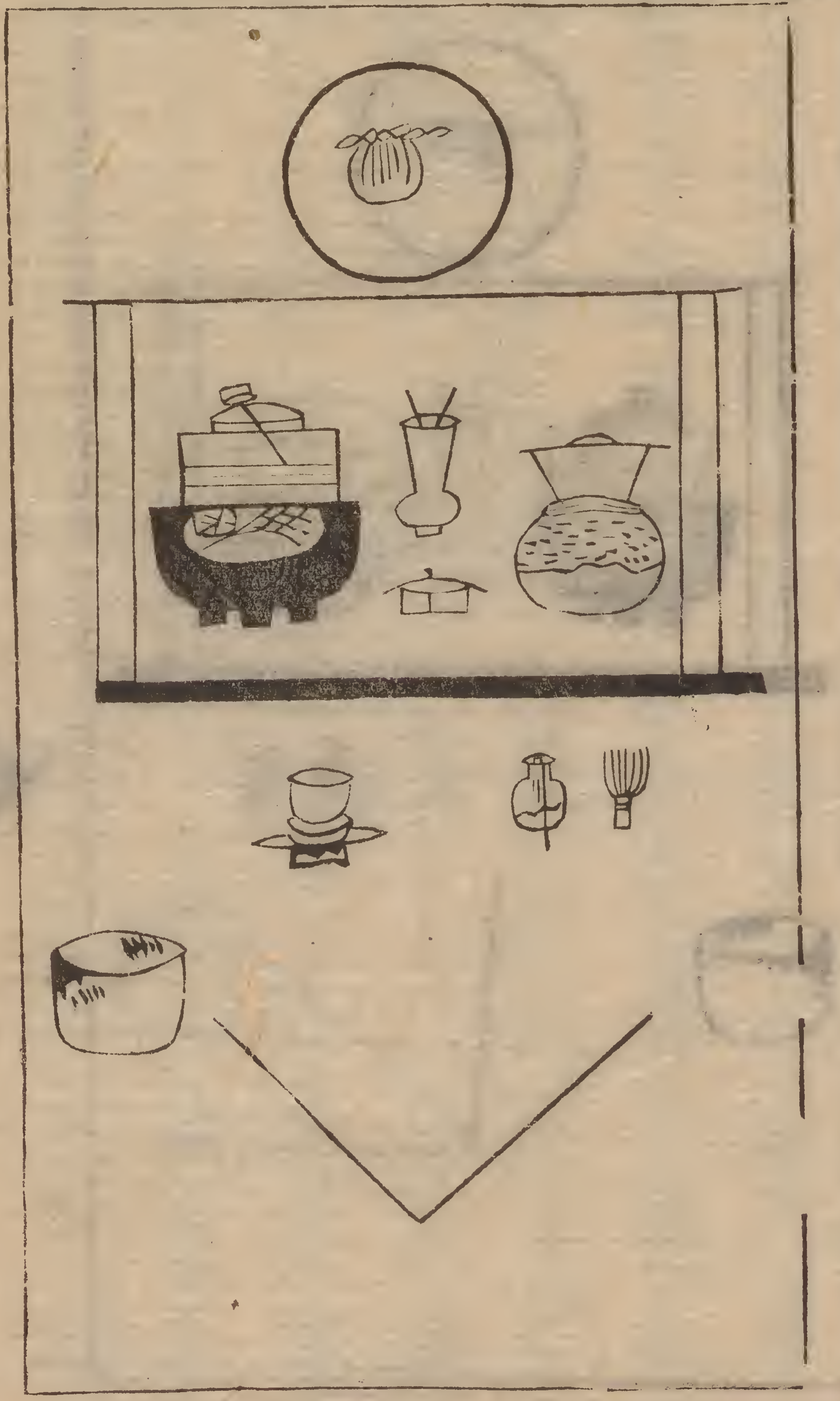


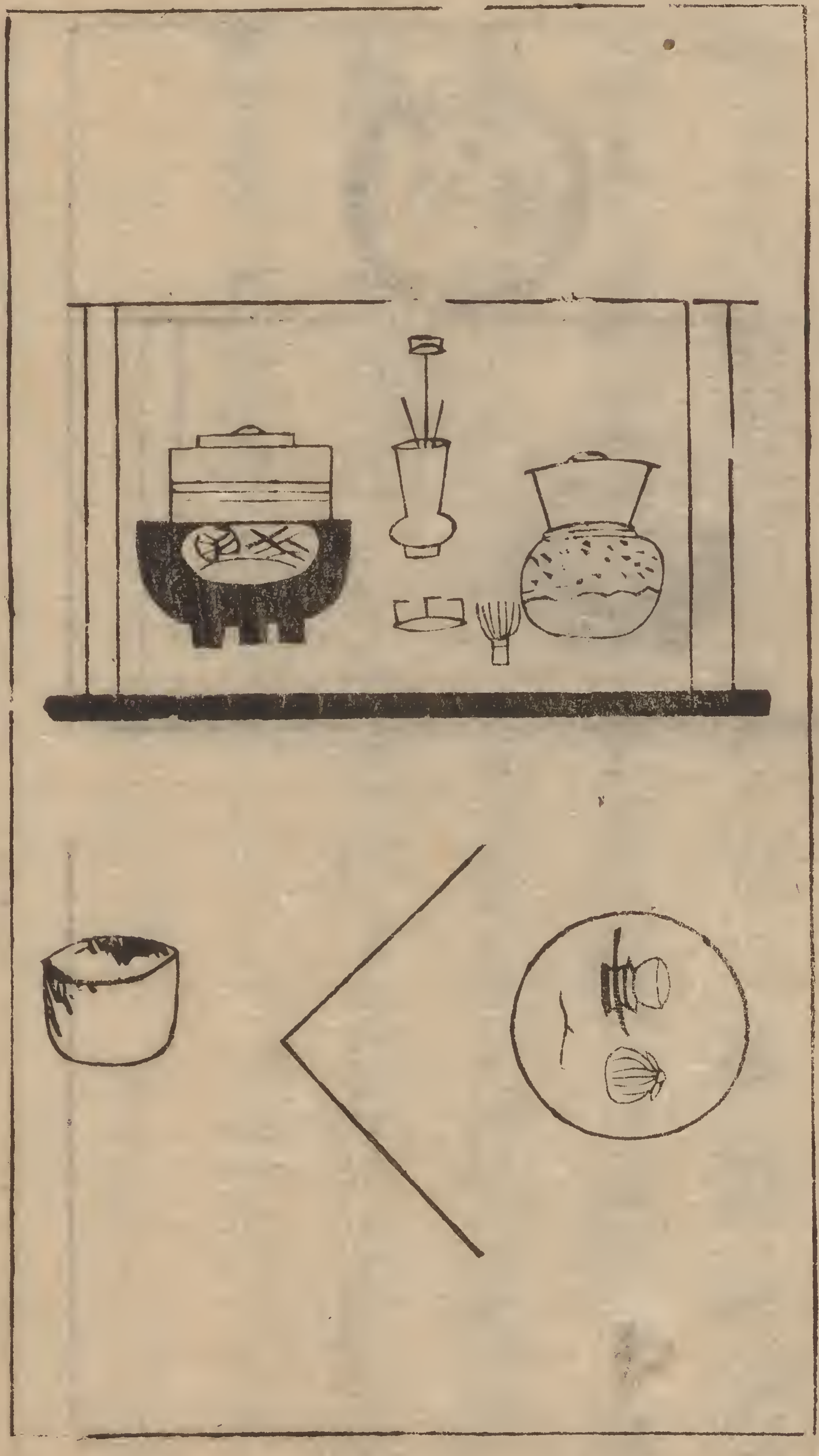
一茶湯の壺をかざる時ハ亭主客人
次一人あまりて相伴(シヤウバン)前より始
客人に加へて服あて一服壺を天目にて
よる次相伴の前にあて茶碗にあて
すい茶あまく出して付て此しなにいれ
次るなまで少しよれおはしも人数ある
時ハ茶碗幾つにあても置つるまでも
あるまじ時宜(ジギ)次第なるべし
一まかせ大壺下し壺天目ハ壺子
半分置茶入子細の品にありて茶碗

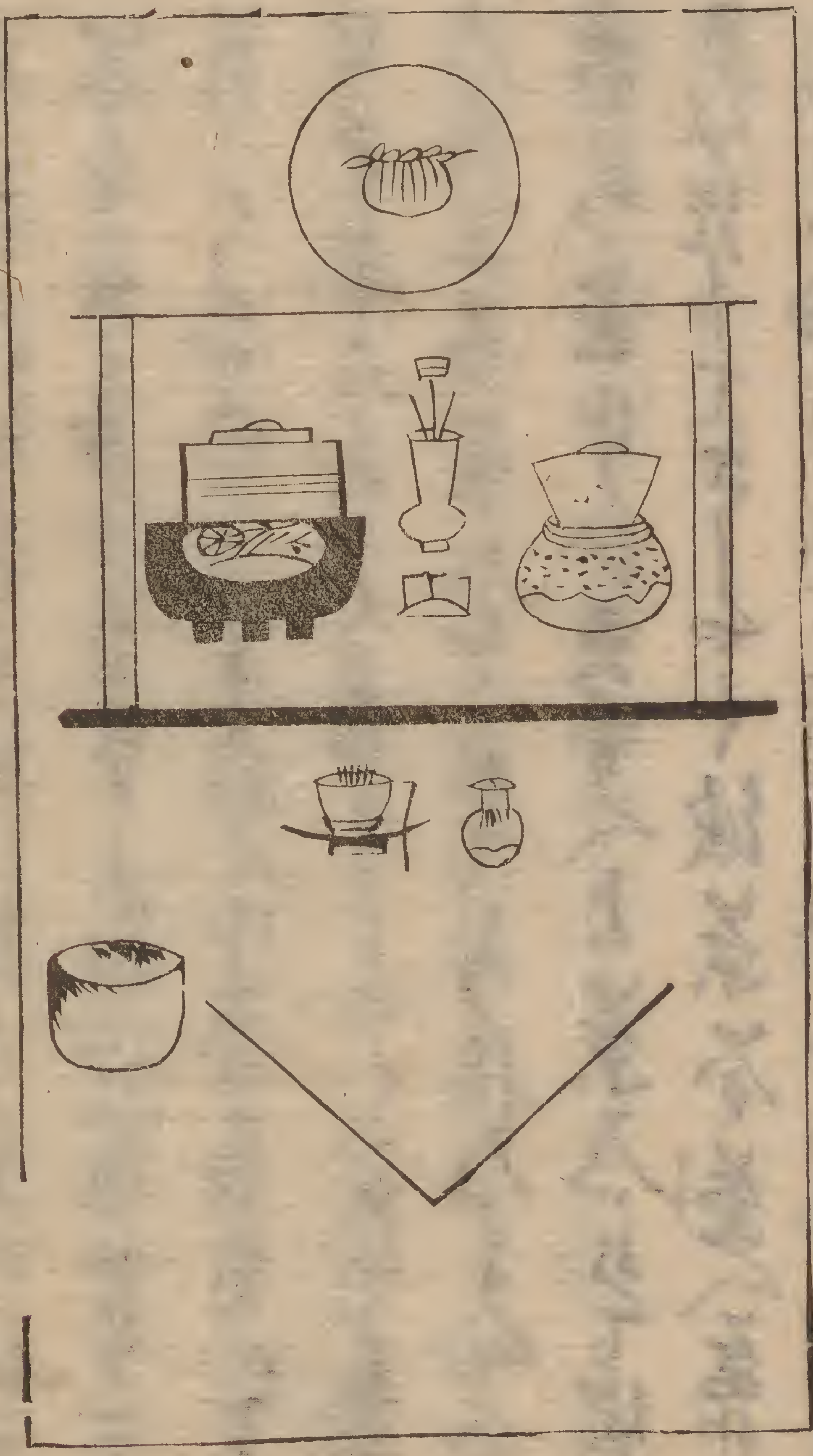
ちにまで壺のようにあ置候 大壺ハ中ひ
よく茶入れ袋さらざなしくれむ
し袋のまま小壺とれ壺 先中ひ茶
入中ひ壺ふの一の蓋なまま 茶杓置
茶釜昌の口壺置 水翻(コボシ)置
置おれ茶の蓋取りぬしや蓋く出し
湯を入文中入 茶釜をひらして
中ひ壺茶巾志てら常にて
茶あれ取り入まで出しなまで取り
客人へ上 茶碗を取湯つぎ入

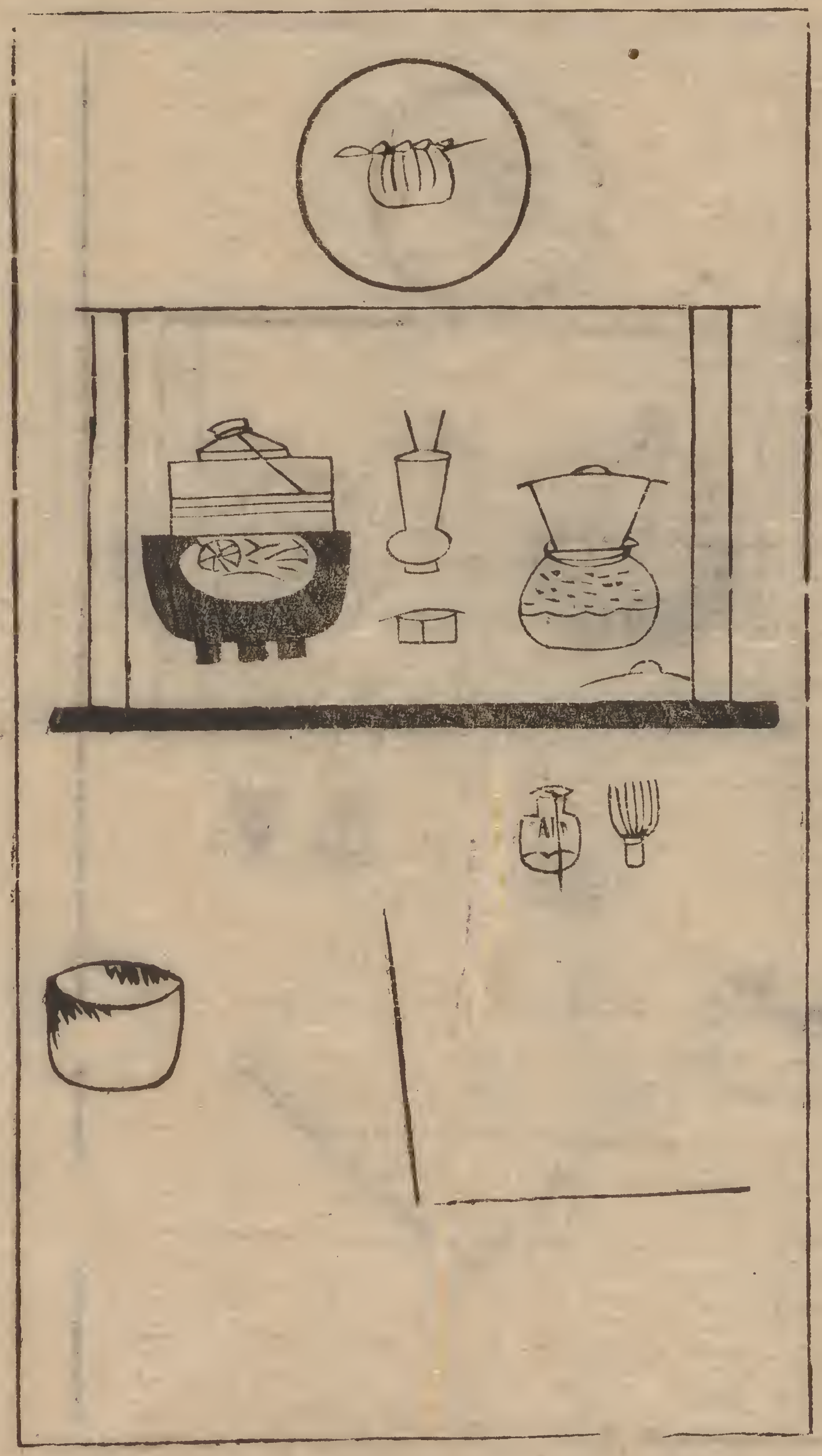
真の台子大丸盆分衆隠架の之圖

釜にしかけ茶釜さんしてしかけ茶巾
おく茶碗かと入釜のふたとりて湯を汲
かげんみ入かり帛紗出し拂茶碗出と
なるを其内み置天目台あるし湯すゝ
をしく大盆みところ置之茶入
給ひて茶碗をいりて出るにうくるなりそれ
不文に清きし





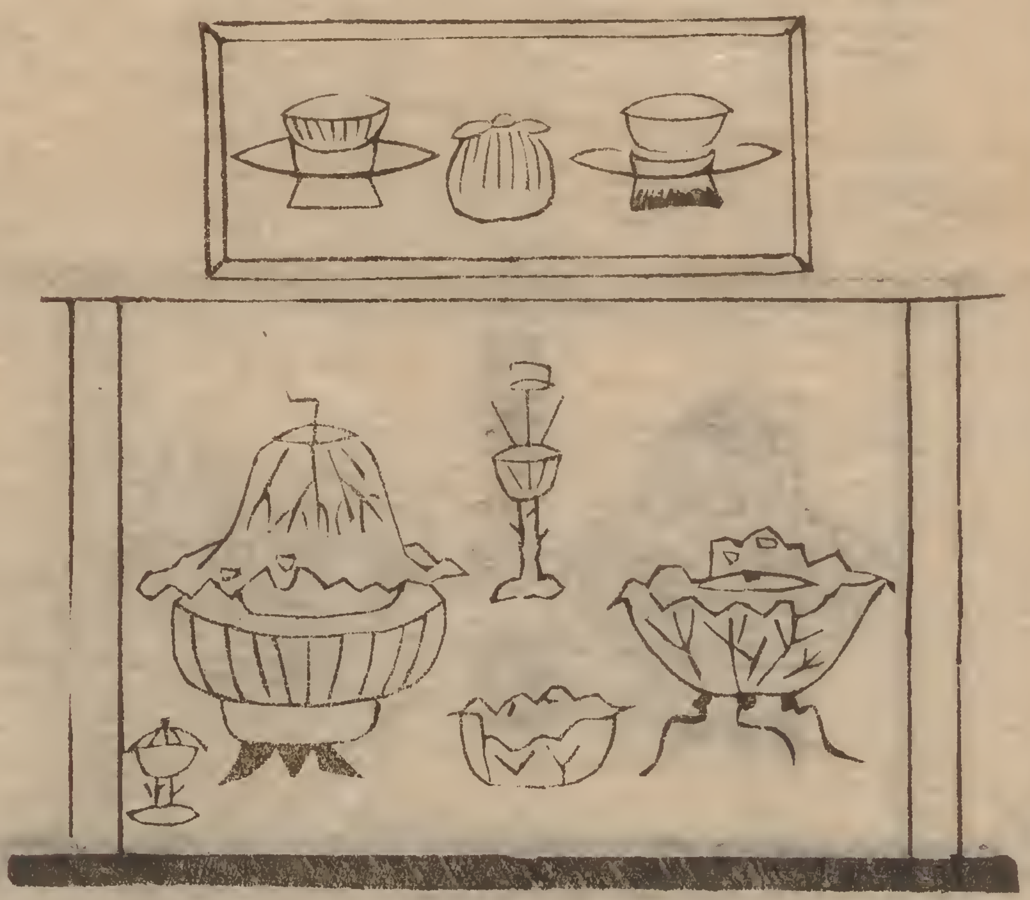


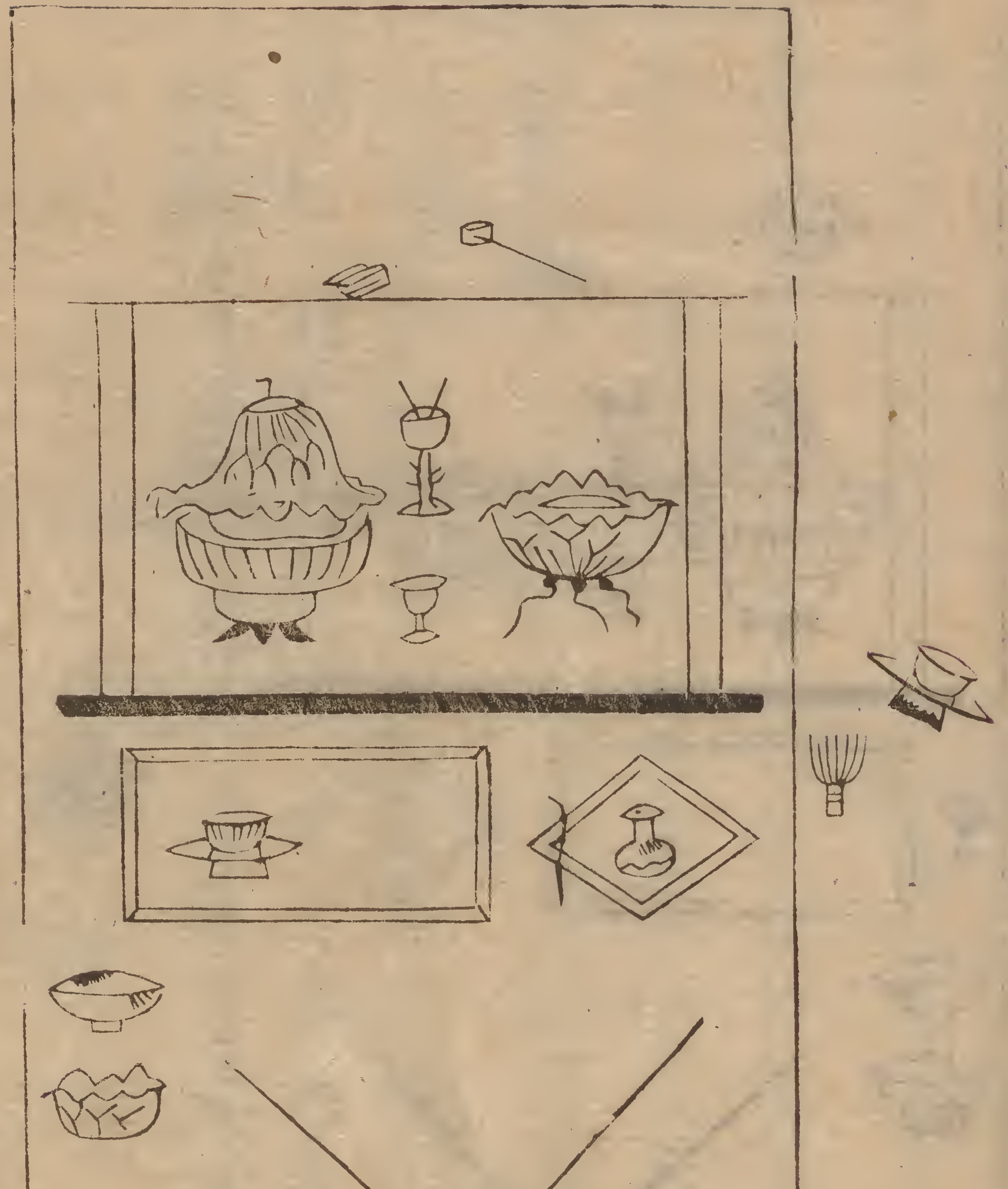


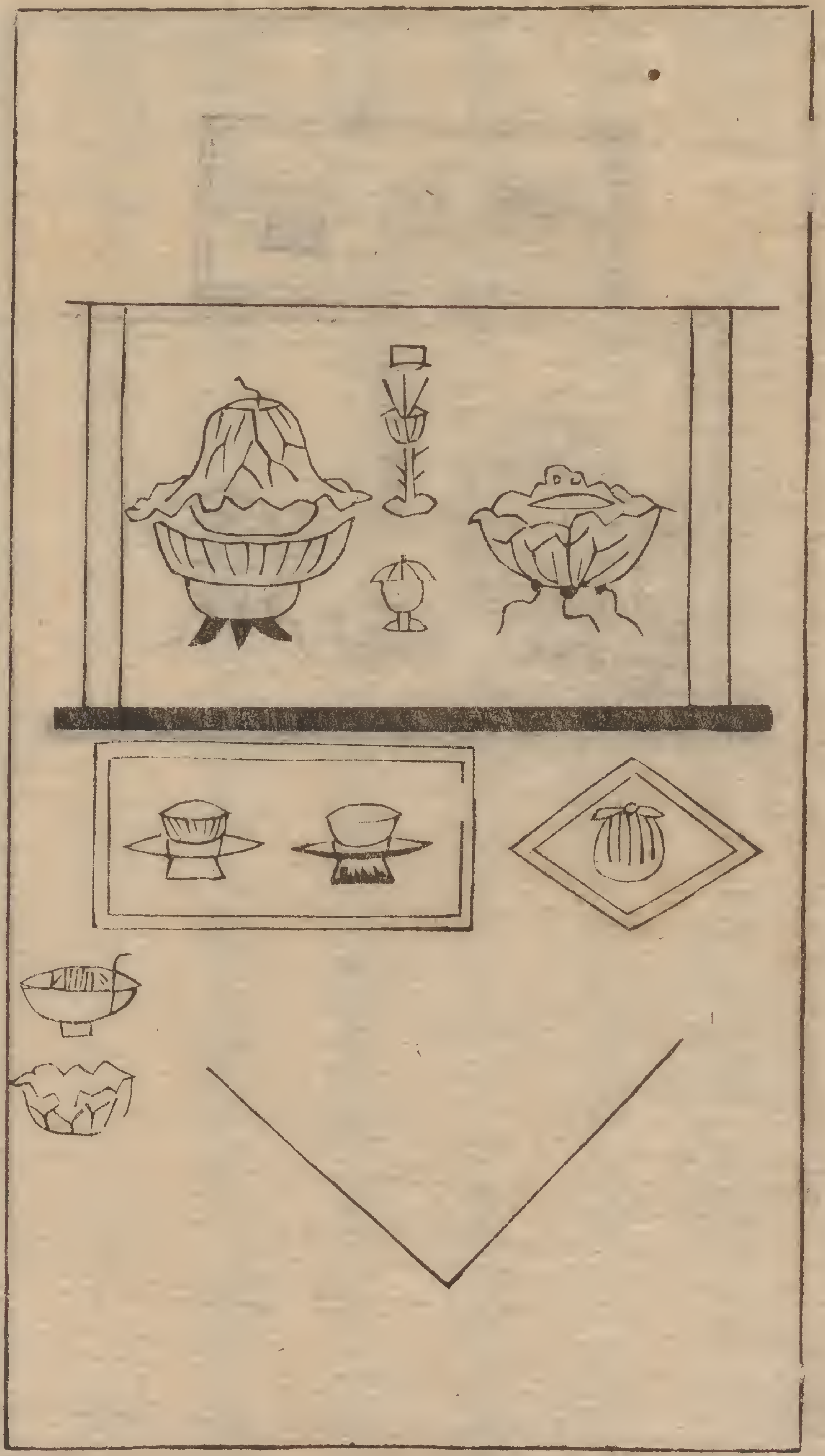
一 吹物ハの壷に文字ある用飾にやさし
に歴おち壷に向ひ緒を立のび茶
谷をみ壷によらぬ者也扇を
引く品のことも扣花壷天目を
以是品乃かとく壷さしやく見て壷
乃初め壷茶入を入れて名乃まへに
壷大是中ひ天目へ上茶入みて茶
さりにしてさしやく濃茶合茶茶巾
うつみ婦くさあ上かくれるのうつくあまり
をあり是の方ならへして置を知らへて

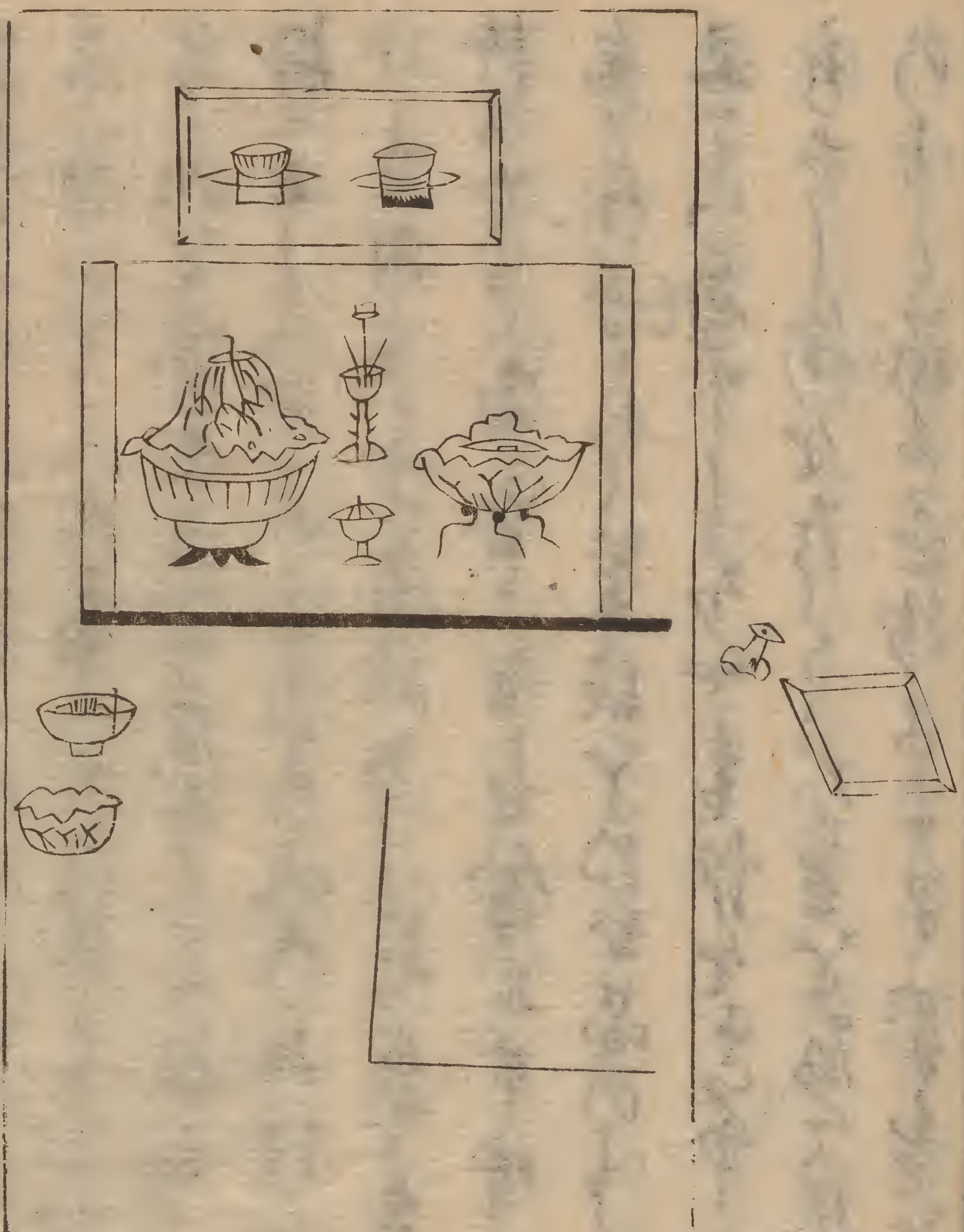
猫の方は上へしく壷中にて谷の壷
を入れひやくぬき湯を入らぬようを
後あしのとし
一 隠架蓋浮壷ち天国のかなるみかくれ
家といふちふく壷の妙ありむ
三人扇をとらされふしとも扇
あくハ西徳乃まハいふありたくやう
いさをやし品めくらし此書立るゆか
おようも

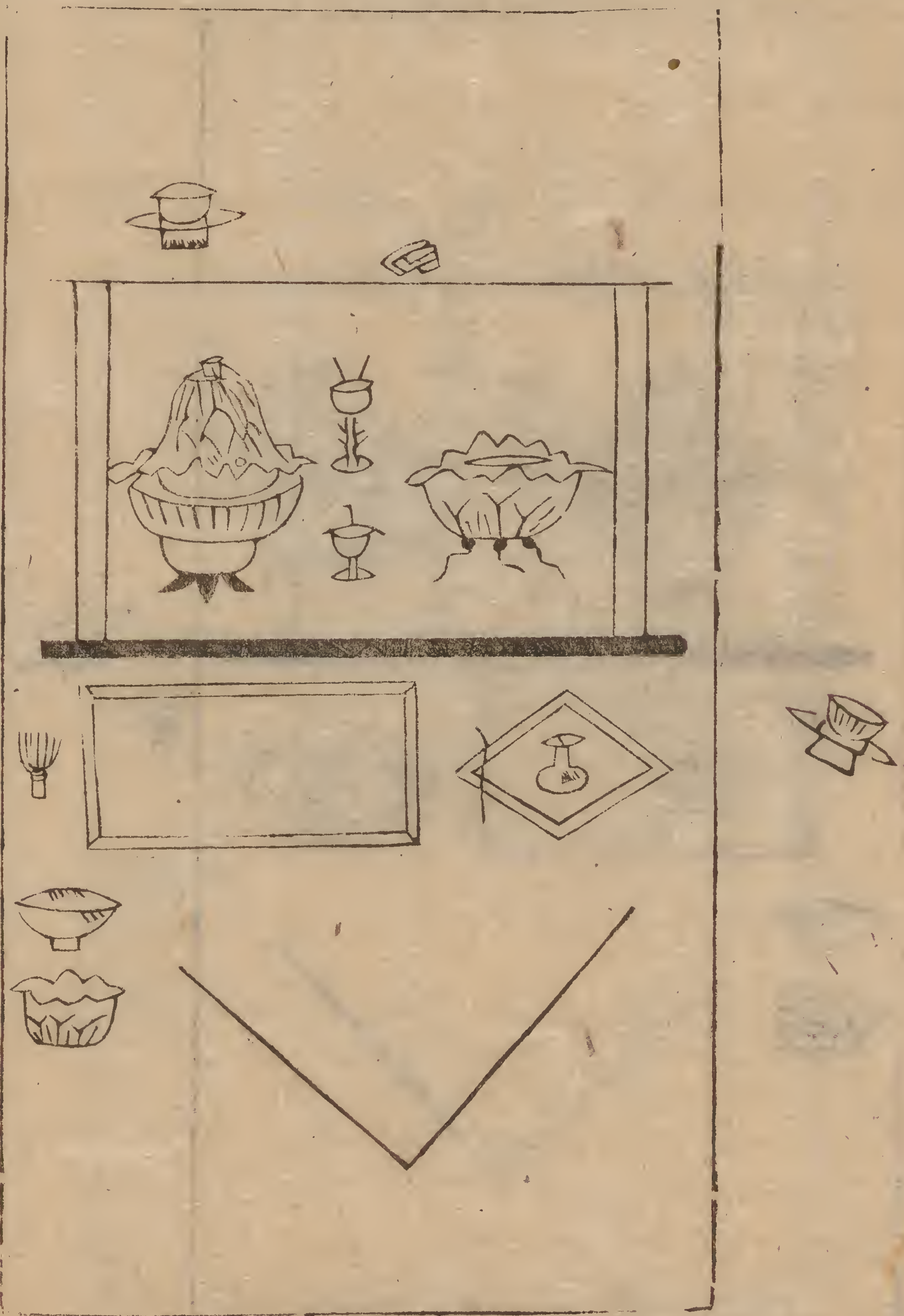
臥以臺天目穂屋香爐并畫圖











一真壺子は摺し荘(カザル)くは二つ三つ置しともよ
ろ塔(タトヘ)ハ吾人清ある人の何條(クデ)もる掛(カケ)下
まで添く吸茶にも成ほどの板かく
掛くみして置きなり共よ清れ綺(シヤウハニ)か
と思はれ茶席に足めて置
清ら也あるとも壺金に座し
帛掛めたる茶席とのありのよく
至の壺(コボシ)下してや香炉をきへ
それし掛をたくて大鉢とつて置
のよく羅(ロリ)め至掛ありとし蓋置と

ば置しもかなもよ盆帛かて置と
掛さ帛掛めたよみ茶入れく袋を
仰せ帛かく仰ハ常にもして釜(カナ)ゑ
茶杓ゆひやくハ先と釜かを付て拘ゆ
茶釜の扇のよく出し掛(よ)くやふそを
ば足のけ盆帛ふて釜の蓋を置
ものやはめ出し湯を差一天目にお
いて入釜の口とまぬきしやく一天目へ
上茶釜をよくて目へ入中めく湯
ば三つして茶の木おかは茶を仰ひ

茶巾をたゝみ又湯はこほして茶碗
に湯柄杓にて二度入又一方の天目
へも押(ヲシ)かけ湯柄杓にて二度入て置
茶巾にてふきぬぐひて茶巾天
目に入て茶入茶入袋のまゝ前にとりさ
さしそれ茶を茶杓にて入方ある也
しに入て入べし茶入は袋より出し
前にても茶のこしさしやくかけ茶碗の
ふたれ湯をよれ置に入切ひしやく
おく総茶碗の数よりまへにてある

へよけ置て天目よりもへし湯は方をき
又湯をくむは何茶碗を座敷ありへし
湯天目へ入るゝ事は茶をかけ
てきしやくにて茶碗かけるを茶碗に
其座のもの置て天目ともへし置
よき程湯治(ヨサメ)にあるべからず事なく
あしらひて置くなり
一 かやうに茶碗のあつかひ習ふ事之は湯

書院にハ碁盤にてかきさまおくゆへ
かきつけたる色の言よふなるにあ
墨のめハあかりんの屏風にてよし
絵にめて春之凡ハかゝぬこそのかり
碁盤にあるほのまのみとくとしともかゝぬ
言ずし羽をうめるんにハ香箱
せいかん筆入ハほしく小ふつまなる
なまへひ大あるらこ花壺
すつみやまへんかんさんたいひ山
黄天目にてよろしとりつくろふれ

わうさく色うしめ紋(モン)を梅くらの
それしきしハよりとふへし
あまりにたらかゝ多く目抜(ヌキ)を
むかて梅くら分一まうより〇もあり
大色八月ニ初めく正れたれハ
わうしかんかをおさめつちし
茶入さしさうにて茶巾とれ
よく(ウク)ゑしく茶入ておくへし
合(カウ)のふた茶入うくしにまさるゆれハ
つかふうおかし又てまかせ置

茶筅(ケツ)めんまいに糸のしみとさるりのそ
まいたるにまうよりに扇子かし
百きしをひいて〳〵ひいてかてをそれハ
作(レ)傳(テン)をうちゝくすひおくへし
かされなの茶壷つゝみ子(シ)細(サイ)あり
これにて気このゆなりてかうし
ゑんかうおかしきつの中ておうひいて置
傳(デン)授(ジュ)とこそ〇ハおうしぬともなり

凡真乃扇子七段心盡極意乃おもとも
むかし日本一流の内に未見聞人に秘
傳しく此書を隠しあるといへとも予
数ふうくか涙なく相傳のあらためゑ
志りもとも先師中ぬうるしいかしく
予ら門弟の内かくも篤学の面し
爰にお相傳を色かくして知るふ遊ま世
此たつり志ふうくめ所をみえさらめたる
ゆへゐ不好伝授せとなまりくゆり
ゆくゑ今さらこゝにかゝれはいと

なをれ

寛永六巳丑年

八月吉日

作者　洛陽隠士　遠藤慶長軒元閑跋

敬休

江戸日本橋南詰松葉清兵衛板行

女庭訓御所文庫　躾方用文 重法入　一冊
女重法記諸礼鑑　躾方女要用文 悉ク集　一冊
女今川　大字手本　二冊
同姫鏡　女躾方重法文章 其外委ク記　一冊
女用躾今川　躾方首書入　一冊
女教補談袋　百人一首用文章 躾方消息入　一冊
女用文珠鑑　小野おつう筆　一冊
香園百人一首　大字ゑ入　全
百人一首大成　註入百書 歌仙ゑ入　全
花林百人一首　女重法品々入　全
婦人寿艸　婦人一生ノ心持 并養生薬方 小委ク入　六冊
女筆君か代　長谷川妙貞筆 大字手本　三冊
女蒙求艶詞　口上ニ云様ニ用文とも 外志つけ方重法　全
男女口上律　童女諸事口上ノ云やうと記を ゑ入小本　全
伊勢物語　首書傳受入 大字　二冊
つれ〳〵艸　そへ手絵入　三冊
万宝福寿往来　庭訓商売往来 古状揃其外品々 重法入大字大冊　全
寺子節用福寿海　大字ゑ入　全
庭訓抄　平かな付註入 講尺本之　三冊
式目抄　平かな付絵入 講尺本之　二冊
絵本倭比事　西川筆手本画 人物草花其外 品々　十冊
謡曲画誌　謡の絵筆之 絵入　十冊
絵本稔恋柱立　草花獣魚鳥 貝虫ノ手本画之　三冊
同写生獣図画　獣物けんの 絵之　二冊
合類絵本鑑　武者 仙人 唐子 唐人 女絵　五冊
世の中百首　守武教訓哥之　二冊
絵本武勇力艸　長谷川光信画 武者絵之　三冊
同士農工商　西川筆 四民絵　三冊
同七福対　福人絵なと　三冊
訓蒙図彙　天地人万物 ゑかき之 絵首書註入　八冊

君ヶ代百人一首 品々重法記 廿四孝入 全
婚礼仕用罌粟袋 婚礼一式の訳 法事まで記ス 二冊
和國玉葛 賢女かゞみ 絵入 五冊
三味線手引書 三味せん引やう くはしく 小本 一冊
源吾秘決 源氏物語の秘事を記 全
諸人一代八卦 年八卦其外 一代の事委ク 二冊
正對易筮占 くらうひのまよひ とうとしてまよひをとく ものゝもの事 小本一冊
天真坤元霊符傳 生れ年より七ツ目 女の利生書あり 外ニ霊符有 全
竹馬八卦抄 平がな八卦本之 二冊
長明道之記 鴨長明 一冊

弘法大師一代記 行状をくはしく記 平かな 三冊
禅宗法語 大燈国師法語 平仮名 全
水波問答 禅宗さとりの書 全
聖一国師法語 全
一休妻鑑 さとりの書 全
月菴法語 全
大原談義 平仮名本 二冊
沢菴法語 全
因果物語 かんな出 正三作 三冊
塩山 抜隨法語 全
廿三問答 全
大智偈頌 全
浄土座敷法談 平仮名 二冊
四部录 全
西方発心集 源空作 安心の書 全
句双紙葛藤抄 句双帋注之 四冊
圓光大師法語 平かな 全
矢数年代記 前代より矢数年代名示年近委ク記 卅三間堂図入 全
長明海道記 鴨長明 二冊
俳諧指火打 季寄四季之詞 小本 全

菊華堂藏板假名本抜書目録

寺町通松原上ル町西側 菊屋七郎兵衛板元

一休目無草 一休和尚 水鏡註 さとりの書 全
同 哥笑記 新左衛門ト問答ノ書 六冊
同 噺本 五冊
同 一代記 年譜 二冊
同 骸骨 さとりの書 哥絵入 全
同 水鏡 さとりの書 全
同 二人比丘尼 さとりの書 全
山家一休 烏鶏問答 絵入 四冊
将棊力艸 作物 三冊

立花大全 花ノ立様 全
同 便蒙 佛前ノ花ノ立様 全
同 訓蒙図彙 百瓶ノ図 并生花入 六冊
同 時勢粧 来原仙渓 画入 八冊
抛入立花道しるべ 生花指南本なり 二冊
商人平生記 常ニ心得ノ事ヲ記ス 全
商人黄金袋 心得ノ事 并故事入 全
万世家宝 四民ノ心得ヲ記ス 四冊
諸禮教訓鑑 小笠原躾方入 全

料理節用大全 料理仕様 并切形包様入 全
同 切形秘傳抄 全
算法重宝記 開平其外割物委ク入 小本 全
算法闕疑抄 諸物割物 其外不残有 五冊
改算智恵車 諸商売 品割塵劫記之全 六冊
万福塵劫記 近道早算 新板 全
万海塵劫記 早割 割物委く 全
世宝塵劫記 随分見安く 全
茶湯真臺子 茶湯稽古之書 五冊

京都書林

寺町通松原上ル町西側

菊屋七郎兵衛

板行

同指南抄　作物　三冊

将棊経抄　作物指方　二冊

同評判　上手評判入　二冊

同指覚大成　指方上手分　五冊

中古将棊記　駒組筆　小本　一冊

中将棊初心抄　指方駒ノ行様　一冊

碁立初心抄　初心稽古本　二冊

諸葛孔明風雨考　雨降晴占　折本小本　一冊

夢相善悪吴府　夢善悪占　小本　一冊

咒咀重法記　まじなひ　小本　一冊

同筆記　諸礼躾方　こまさ委記　五冊

諸禮當用集　當流諸礼悉集　三冊

男重法記　諸礼躾方　其外重法集　全

和字大勧抄　假名つかひ書ナリ　二冊

定家假名遣　全

手尓葉紐鏡　てにをはの格　折本　全

滝本管書帖　正筆　全

同消息　正筆　全

朝鮮人行列記　品々　全

朝鮮年代記　絵入　三冊

華夷通商考　異国行程人物土産物産異獣等委記ス　五冊

異國物語　外国ノ人物註釈ヲ加　三冊

高仁傳　馬乗様書　二冊

楠一生記　正成一生ノ事ヲ記　絵入　十二冊

本朝諸士百家記　諸国敵討其外実説ヲ記　絵入　十冊

本朝藤陰比事　諸公事ノ捌方書　七冊

日本鹿子　諸国名所旧跡神社仏閣名提要記ル　十二冊

奈良名所記　名所旧跡委ク集　小本　全

京之圖　懐中本　全

大坂之繪圖　懐中本　新改正　全